

PC 入門



目 次

1. パソコンの仕組みとマウス操作	1
パソコンの仕組み	1
デスクトップ型パソコンの各部名称.....	2
ノート型パソコンの各部名称	2
電源を入れる	3
サインインする	3
マウス操作について	5
 2. Windows 8.1 Update の基本操作	6
スタート画面とデスクトップ画面	6
スタート画面の名称	7
デスクトップ画面の名称	8
スタート画面とデスクトップ画面の切り替え.....	9
アプリを起動する	10
アプリを切り替える	12
2つのアプリを画面分割して表示させる（スナップ機能）	14
アプリを終了する	16
使いやすい画面に設定する①ピン留め.....	17
使いやすい画面に設定する②タイルの編集.....	17
アプリやドキュメントを検索する	18
チャームを使いこなす	19
パソコンの電源を切る	22
 3. フォルダーとファイル	24
エクスプローラー	24
フォルダーとファイルとは	25
フォルダーの見方	25
ファイルの見方	26
フォルダーの作成、ファイルの移動・削除.....	27

4. タッチタイプ入門.....29

キーボードとタッチタイプについて.....	29
ホームポジション	30
指の役割分担	30
日本語入力モードのオン/オフ	31
「ローマ字入力」と「かな字入力」、入力の確定・改行	32
【参考】ローマ字表	33
数字・記号を入力する	34
文字を削除する	35
平仮名を漢字に変換する	36
ファンクションキーを利用した変換.....	37



本書では、次の環境を基準に説明しています。

- ・ OS : Windows 8.1 Update

画面など、予告なく変更される場合があります。

また、本書の著作権は日本マイクロソフト株式会社が保有しています。本書に掲載されたもの、およびデータは、著作権法上、個人で使用する以外、無断で複製、複写、転載、再配布することを禁じられています。

Microsoft、Windows、Office、Word、Excel、Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。本書中に登場するアプリケーション名などは一般に各メーカーの登録商標です。本書には©、®、TM マークは明記しておりません。

1. パソコンの仕組みとマウス操作

▶ パソコンの仕組み

パソコン = PC (Personal Computer) は「ハードウェア」と「ソフトウェア」で構成されています。

●**ハードウェア** : パソコン本体と、接続する機器 (モニター・マウス・キーボード・プリンター等)

●**ソフトウェア** : OS (オペレーションシステム) :

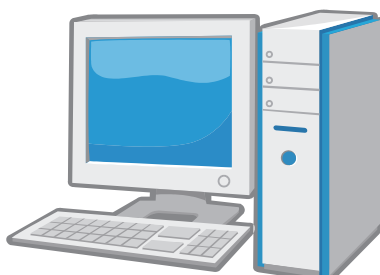
その PC を動かすためのシステムで、この講座では Windows のことです。

PC に接続されているハードウェアやアプリケーションの動作を管理しています。

アプリ (アプリケーション) :

やりたいことに応じて使うプログラムです。

インターネットを見る→ Internet Explorer 、書類をつくる→ Word ……など。



一般的なデスクトップ型 PC



一体型デスクトップ型 PC

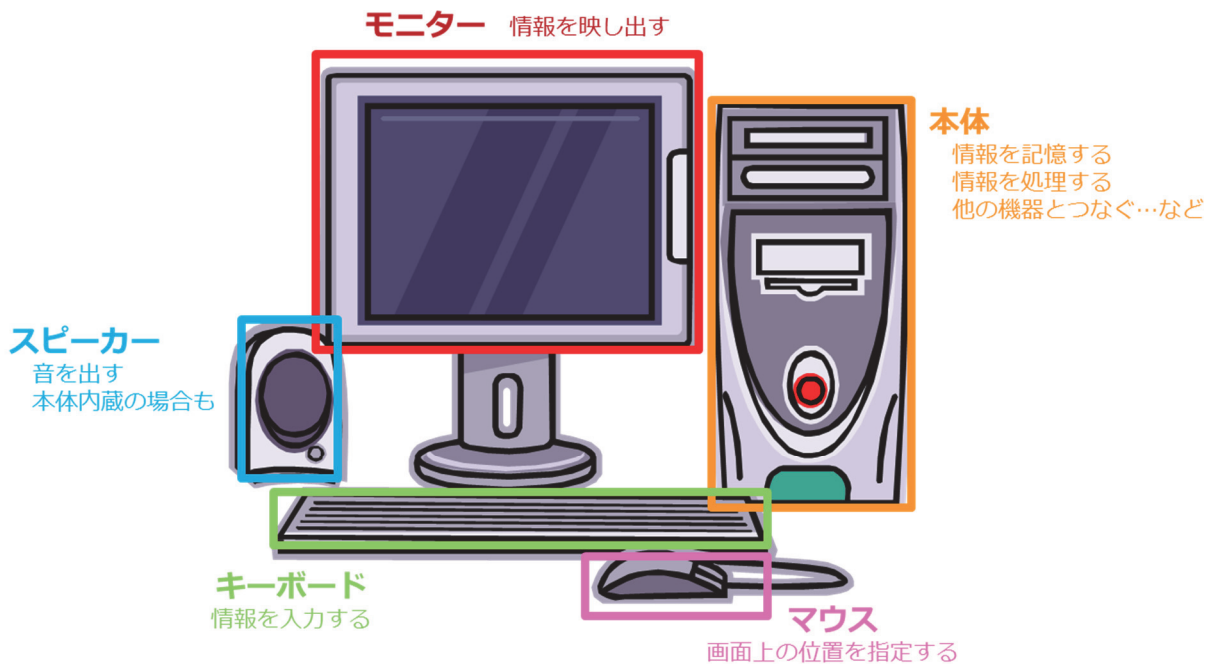


ノート型 PC

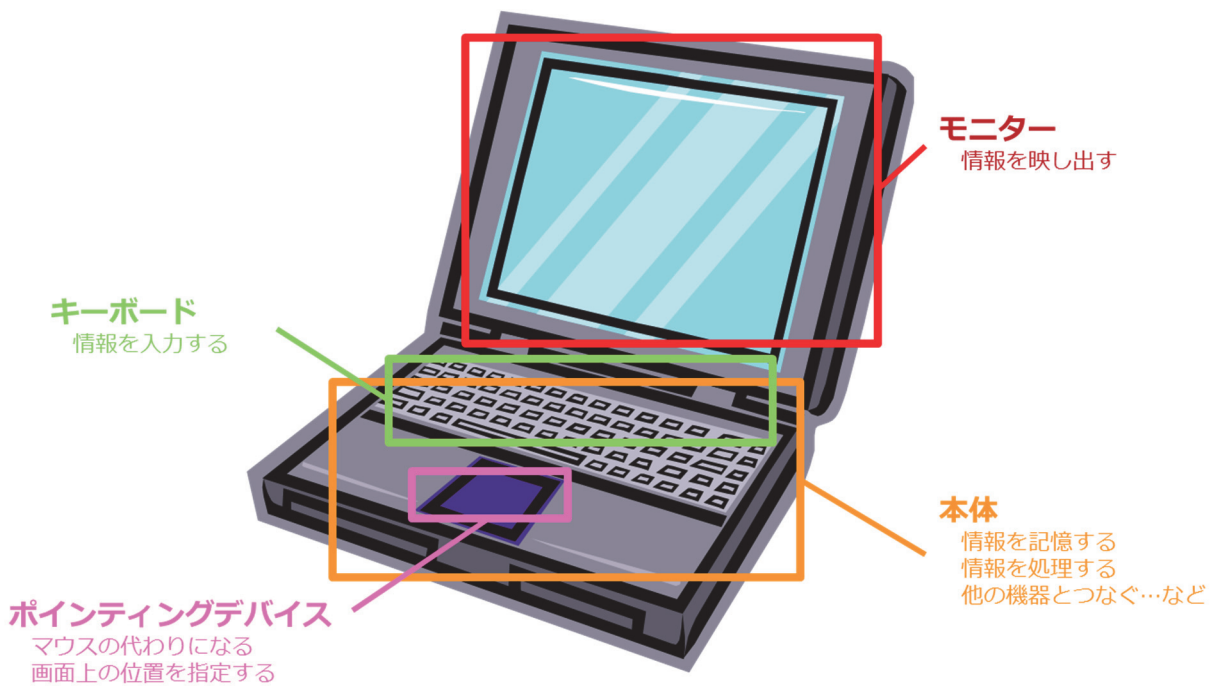


タブレット型 PC

▶ デスクトップ型パソコンの各部名称



▶ ノート型パソコンの各部名称



▶ 電源を入れる

それではパソコンの電源を入れてみましょう。
どのパソコンでも、電源ボタンは共通のマークです。
慌てず右図のマークを探して押してみましょう。

電源が入らないときは、

- ①電源コードが抜けていないか
- ②バッテリーで動かしているがバッテリー切れになっていないか

などを確認しましょう。



電源ボタンのマーク

▶ サインインする

「サインインする」とは、そのパソコンのユーザーとして使用を開始することです。使うパソコンによって、サインインにパスワードが必要な場合と、そうでない場合があります。なお、最初に表示される画面の画像（背景写真など）は、それぞれパソコンの設定によって異なることに注意して下さい。

①ロック画面

この画面が出てきたらキーボードの **Enter** を押しましょう。次のサインイン画面になります。

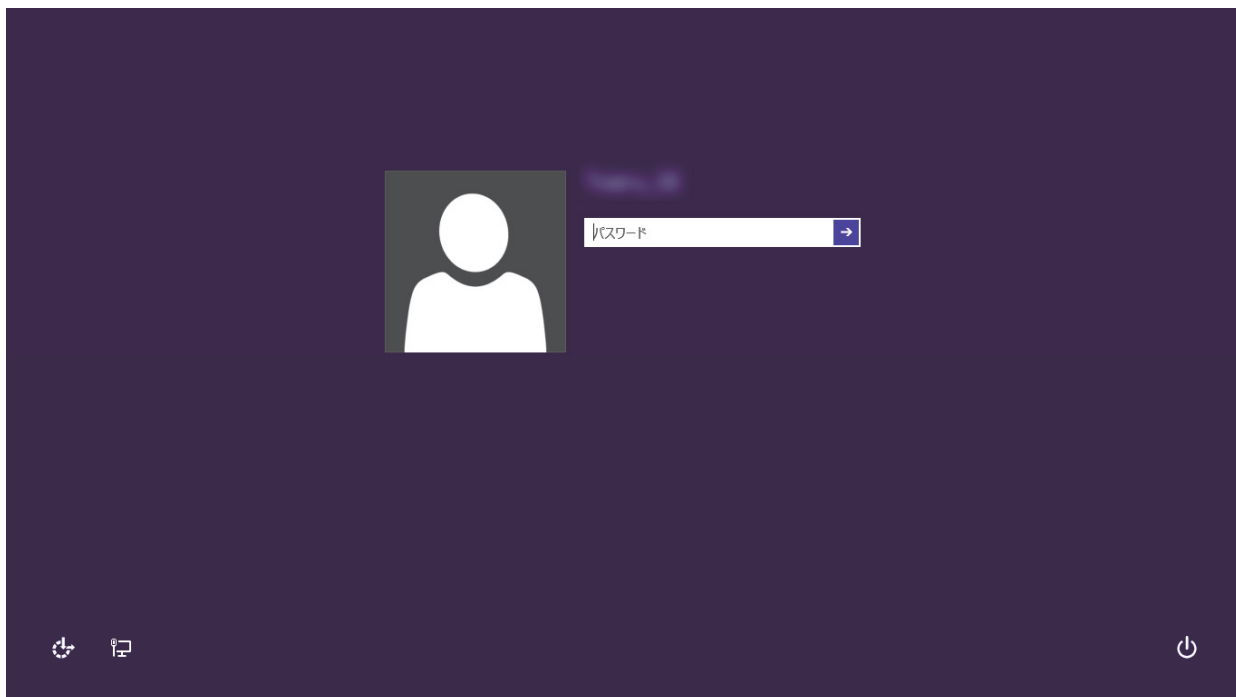


※表示される画面の画像（背景写真など）はパソコンの設定によって違うことがあります。

※パスワードが設定されていないパソコンで再起動した場合などにはロック画面は表示されません

②サインイン画面

この画面が出てきたら、パスワードを入力して **Enter** を押します。パスワードを設定していない場合には、この画面は表示されません。



③スタート画面

サインインすると、以下のような「スタート画面」が表示されます。ここからマウスやキーボード（タッチ操作対応のパソコンの場合はタッチ操作も含めて）必要な操作を実行します。



▶ マウス操作について

マウスとは右図のようなものです。

ほとんどの場合、上側に 2 つのボタンと、中央にホイールがついています。

右利きの場合であれば、左側のボタンに人差し指、右側のボタンに中指を置き、全体を軽く握るようにします。

マウスを動かすと、画面上の矢印（マウスポインター）がマウスの動きに合わせて動きます。

マウスが机の端まで行ってしまい、それ以上は動かせなくなったら、マウスを持ち上げて元の場所に戻せば大丈夫です。



講師の指示に従って、次の操作の練習をしてみましょう

- ①マウスを軽く握り、動かしてみる
- ②「クリック」する
- ③「ダブルクリック」する
- ④「右クリック」する
- ⑤「ドラッグ」する（左のボタンを押したままマウスを動かし、動かした先で指を離す）
- ⑥ホイールを回してみる（ホイールのあるマウスの場合のみ）

クリック 左ボタンを 1 回カチッと押す	ダブルクリック 左ボタンを素早く 2 回、カチカチッと押す
	
右クリック 右ボタンを 1 回カチッと押す	ドラッグ マウスの左ボタンを押したままマウスを動かす
	

2. Windows 8.1 Update の基本操作

▶ スタート画面とデスクトップ画面

Windows を起動すると、タイル（四角のアイコン）が並ぶ「スタート画面」が表示されます。これは、以前のバージョンの Windows の「スタート」メニューにあたる画面が、専用の画面に配置されたものです。

スタート画面にある「デスクトップ」をクリックすると、以前のバージョンの Windows を使ったことがある人は見慣れた「デスクトップ画面」（以前の Windows で起動したあとと最初に表示される画面）が起動します。この「デスクトップ画面」では、今までの Windows とほとんど変わらない操作をすることができます。



Windows 8 と Modern UI

Windows 8 を起動すると、過去の Windows を使ったことがある人は、その見た目の違いに驚くはずですが、詳しくはこれから学んでいきますが、この新しい見た目（ユーザーインターフェイス = User Interface）は Modern UI と呼ばれているもので、スマートフォンやタブレットのように画面をタッチした操作をするときの使いやすさを意識して開発されたと言われています。もし使っているパソコンがタッチ操作に対応しているものであれば、マウスとキーボードだけで操作をするよりも、より直観的に操作できることが実感できるはずです。

※なお、このテキストは、まだタッチ操作に対応していないパソコンもあることを前提に、

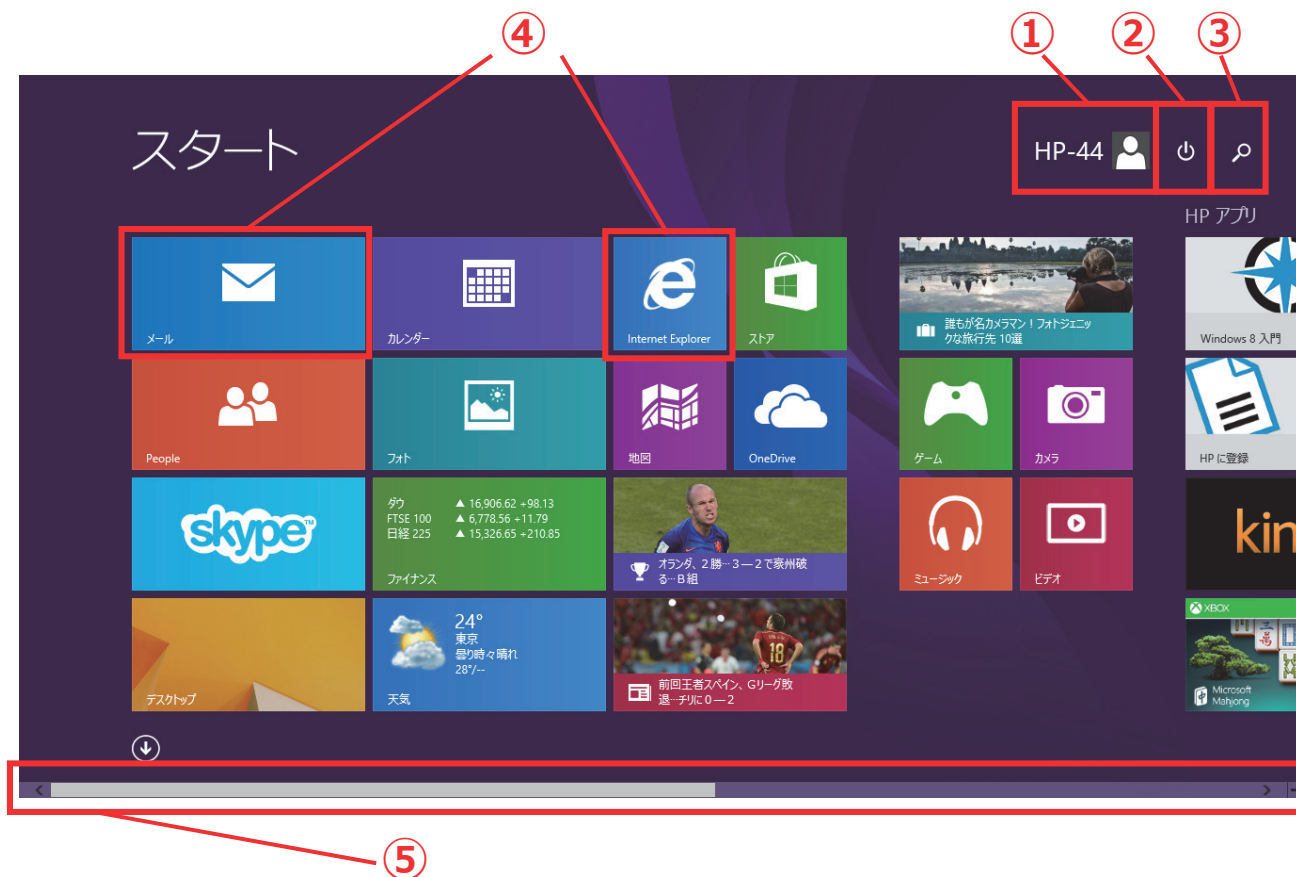
マウスとキーボードを使った操作を前提につくられています。

テキストで紹介しているマウス操作をタッチ操作でする場合にどうするかは、講師からの説明で補足していきます。

▶ スタート画面の名称

サインインすると表示されるのが「スタート画面」です。

使っているパソコンによってタイルの大きさや並び順は異なります。自分用のパソコンやアカウントであれば、あとで学ぶ方法でタイルの大きさや位置を変える、タイルの並び順を変えるなどして、より使いやすくすることができます。



①アカウント	Microsoft アカウントと連動できる。ユーザーの切り替えなどはここから。
②電源ボタン	電源をオフしたりスリープにしたりすることができる。
③検索ボタン	そのパソコンの中のドキュメントやアプリケーションを検索することができる。
④タイル	アプリ等のアイコン。サイズを変更したり、並べ替えたりできる。
⑤スクロールバー	タイルが 1 画面に収まらなると表示される。右端の「-」を押すと画面が縮小表示される。

▶ デスクトップ画面の名称

スタート画面にある「デスクトップ」というタイルをクリックすると、「デスクトップ画面」になります。この画面でしか動作しないアプリもあり、とてもよく使う画面です。



①スタートボタン	右クリックすると各種メニューが表示される。スタート画面への切り替えも。
②タスクバー	「ピン留め」したアプリや起動中のアプリが表示される場所。
③タスクトレイ	常駐アプリの表示や音量の調整など。
④アイコン	「ごみ箱」などのシステムアイコンのほか、ショートカットやドキュメントなどが表示される。 画面の広い部分だけでなく、「②」のタスクバーにも表示される。


▶ スタート画面とデスクトップ画面の切り替え

スタート画面とデスクトップ画面は、よく切り替えをします。代表的な方法は以下の通りです。

① スタート画面からデスクトップ画面への切り替え

スタート画面の「デスクトップ」タイルをクリックします。

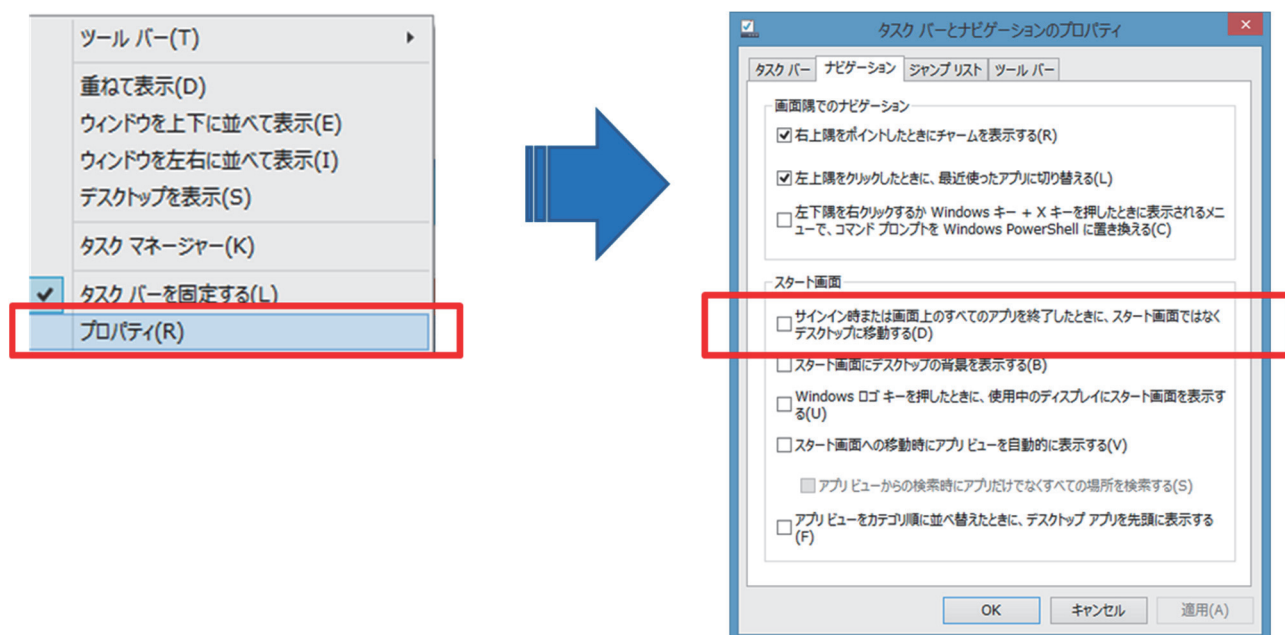
② デスクトップ画面からスタート画面への切り替え

デスクトップ画面左下の  マーク（スタートボタン）をクリックします。



サインインしてすぐにデスクトップ画面を表示する

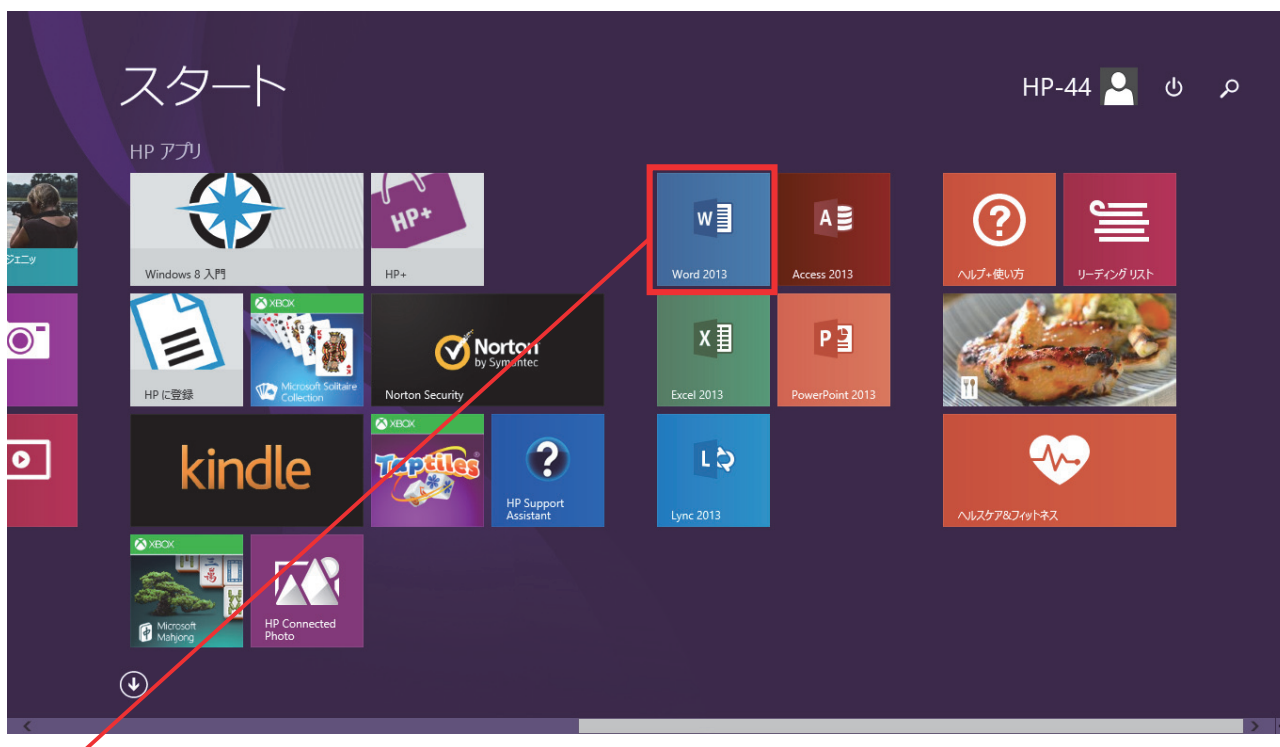
以前のバージョンの Windows のように使いたい場合には、サインインしてすぐデスクトップ画面を表示させることができます。デスクトップ画面のタスクバーの上で右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択肢、「ナビゲーション」タブから設定できます。



▶ アプリを起動する

アプリを使う（起動する）場合には、スタート画面でタイルをクリックするか、デスクトップ画面のタスクバーのアイコンをクリックします。アプリには 2 種類あり、①マウス操作だけでなくタブレットのようなタッチ操作に最適化されている「ストアアプリ」と、②デスクトップ画面でだけ動作する「デスクトップアプリ」があります。デスクトップアプリは、スタート画面でタイルをクリックしても、デスクトップ画面に自動で切り替わってから起動します。

①スタート画面：タイルから起動する



起動したいアプリのタイルをクリックすると起動します。タイルの位置はパソコンの設定によって異なります

②デスクトップ画面：タスクバーのアイコンから起動する



起動したアプリがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンをクリックします

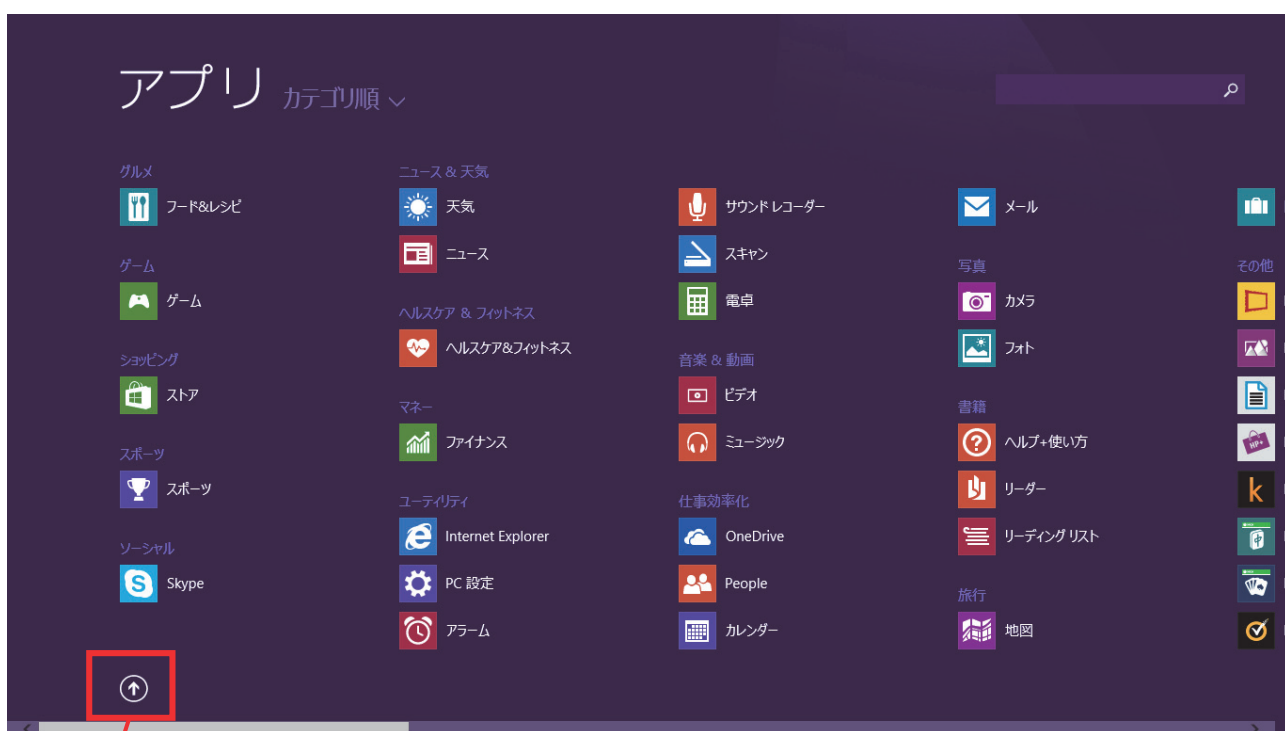


スタート画面やタスクバーに起動したいアプリが表示されていない場合

スタート画面にもデスクトップ画面のタスクバーにも使いたいアプリが表示されていない場合には、スタート画面左下の「↓」ボタンを押してみましょう。そのパソコンで使えるすべてのアプリが表示されます。



ここをクリック



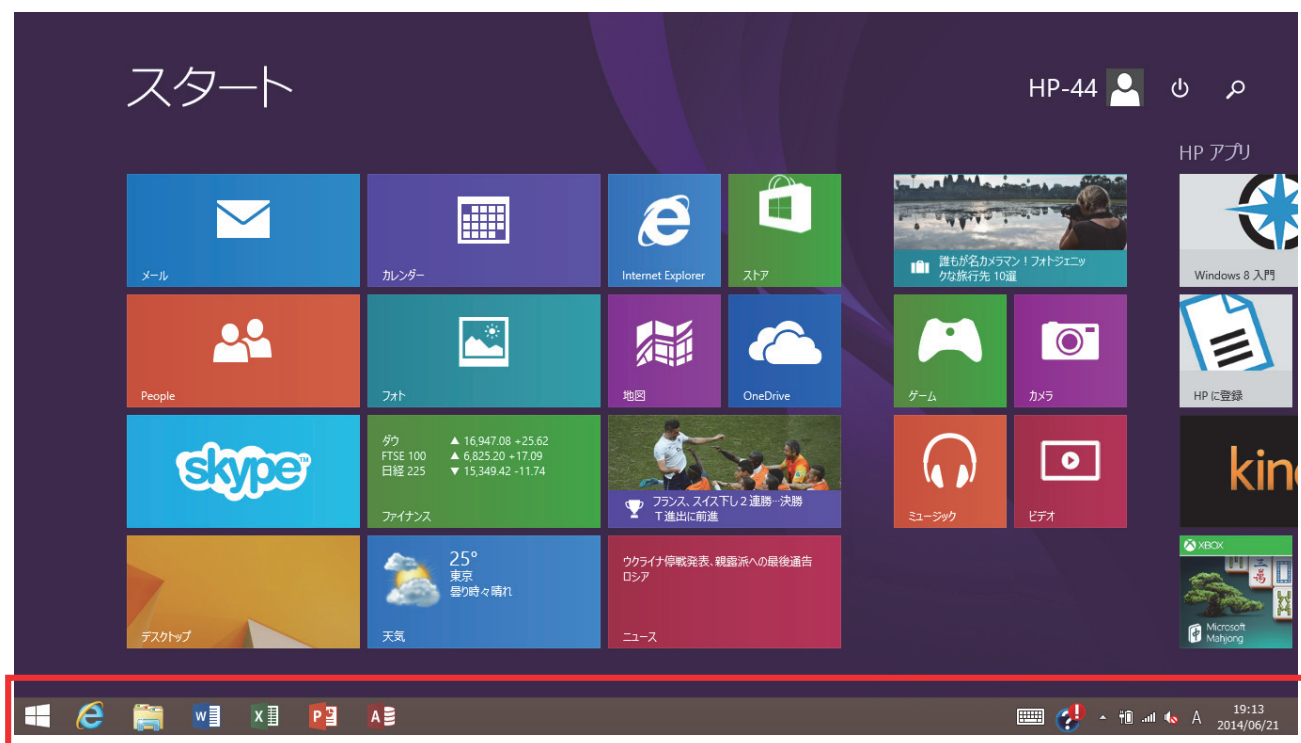
スタート画面に戻りたい場合は「↑」をクリックします
アプリを選択してクリックするとアプリが起動します

▶ アプリを切り替える

Windows はいくつものアプリを同時に起動することができます。また、同時に起動しているアプリを切り替えることができます。アプリを切り替えるには、①「タスクバー」に表示されているアイコンをクリックする方法と、②スタート画面の操作（画面左上にマウスポインターを合わせてから下に移動する）で表示されるサムネイル（小さく表示されているアプリ画面）をクリックする方法があります。

①タスクバーで切り替える（スタート画面・デスクトップ画面共通）

スタート画面でマウスポインターを画面下端に合わせたあと、さらに少し下に動かすと、スタート画面にもデスクトップ画面と同じタスクバーが表示されます。



スタート画面の下部に、タスクバーが表示されます

起動しているアプリが薄い四角で囲われているので、表示させたいアプリをクリックします

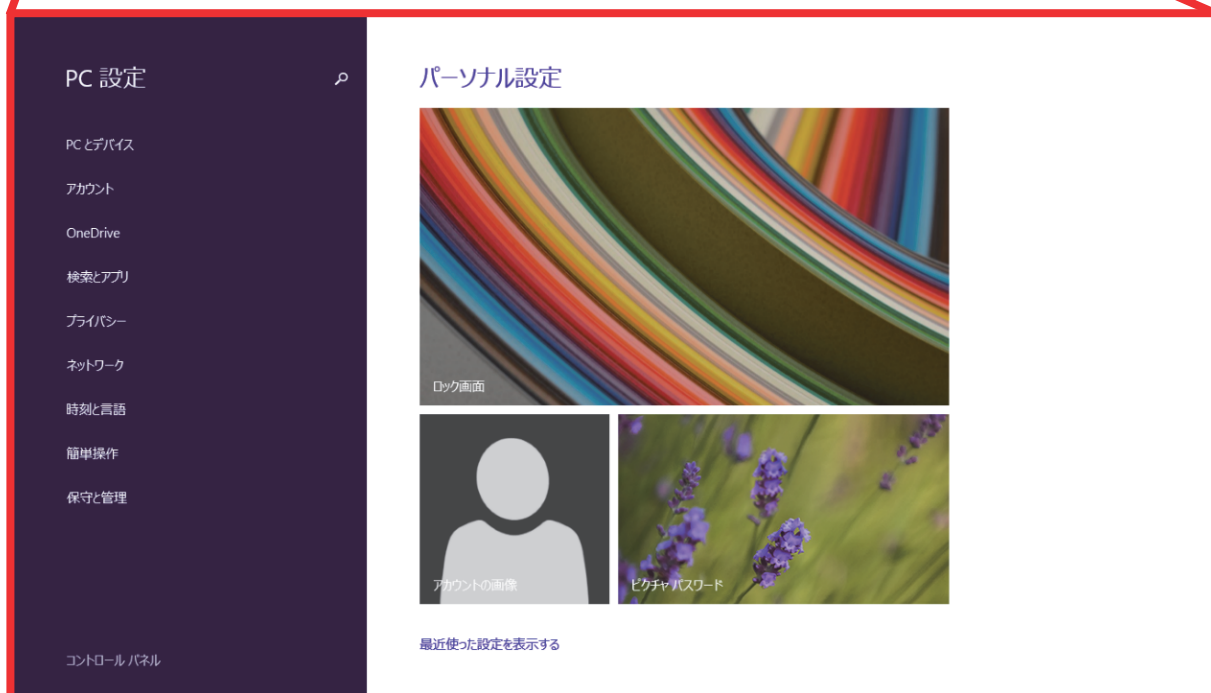
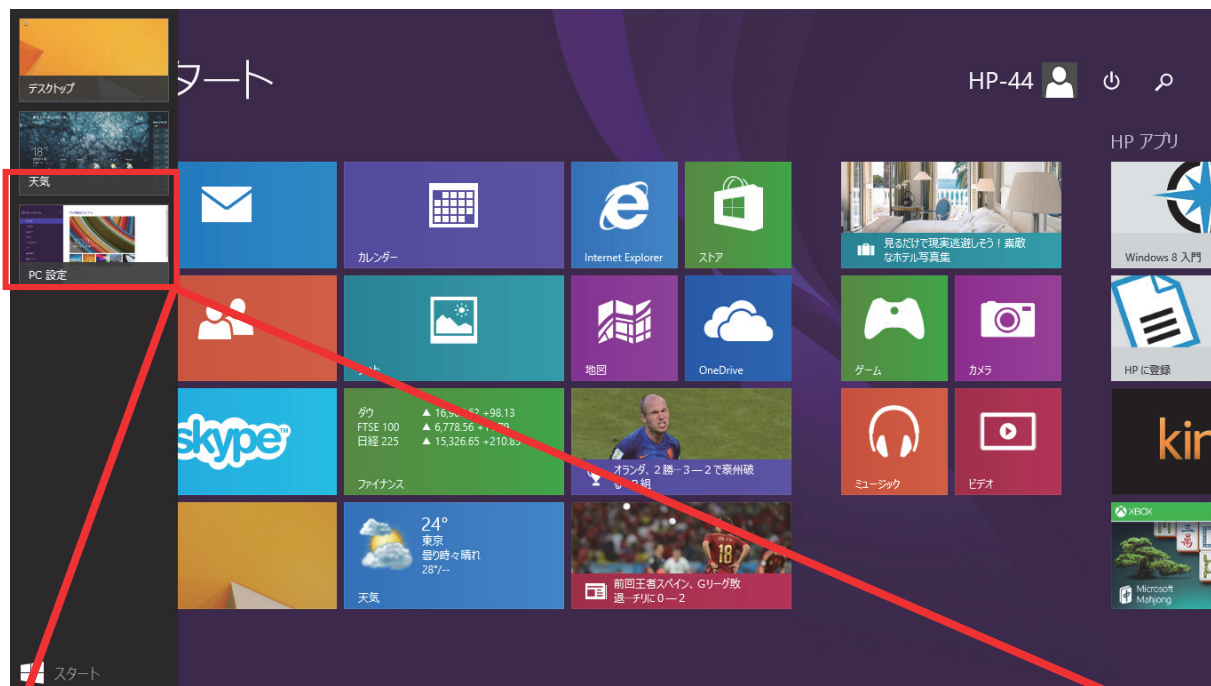


②スタート画面の操作で切り替える

画面左上にマウスポインターをあわせてから下に移動すると開いているアプリが縮小表示された画面（サムネイル）が表示されるので、切り替えたいアプリのサムネイルをクリックします。ただし、デスクトップアプリを複数使っている場合でも、「デスクトップ」として 1 つのサムネイルで表示されることに注意して下さい。いきなり、あるデスクトップアプリの画面に切り替えたい場合は、タスクバーをつかって切り替える方が便利です。

←①マウスポインターを画面左上に移動

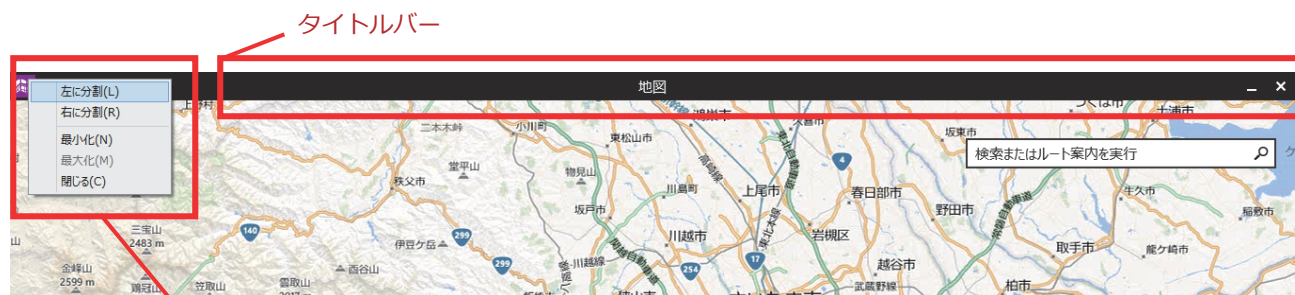
↓②マウスポインターを下に移動



選択したアプリが全画面表示されます

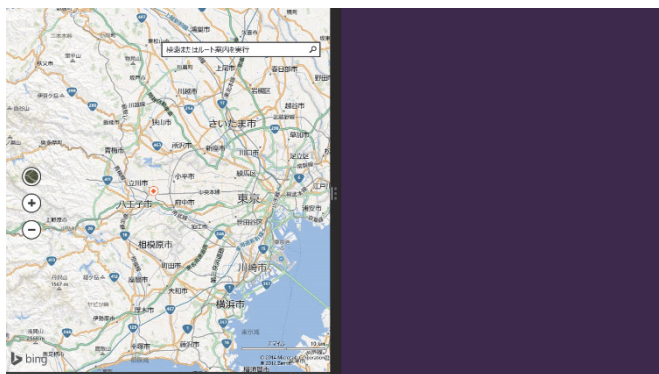
▶ 2つのアプリを画面分割して表示させる（スナップ機能）

インターネットの検索結果を見ながら Word で文書を編集したい場合などに、画面を分割して 2 つのアプリ画面を表示させることができます。ストアアプリを起動中にマウスポインターを画面上部に移動すると表示される「タイトルバー」の左端にあるアイコンをクリックし、「左に分割」または「右に分割」を選択すると、選択した内容に応じて画面が分割されます。分割の幅は分割後に縦に表示されるバーを動かすことで調整することも可能で、パソコンごとに決まっている「画面の解像度」によっては、最大 4 分割することができます。

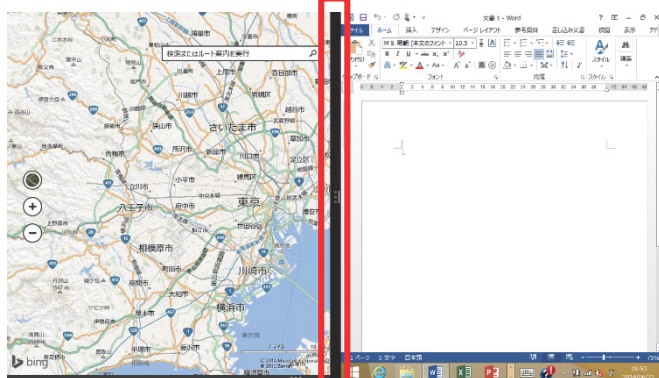


アイコンを右クリックすると表示されるメニュー。ここから選択

分割直後の画面。画面右側の紺色部分をクリックすると全画面がスタート画面に切り替わります



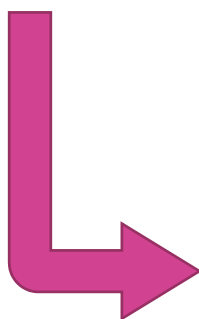
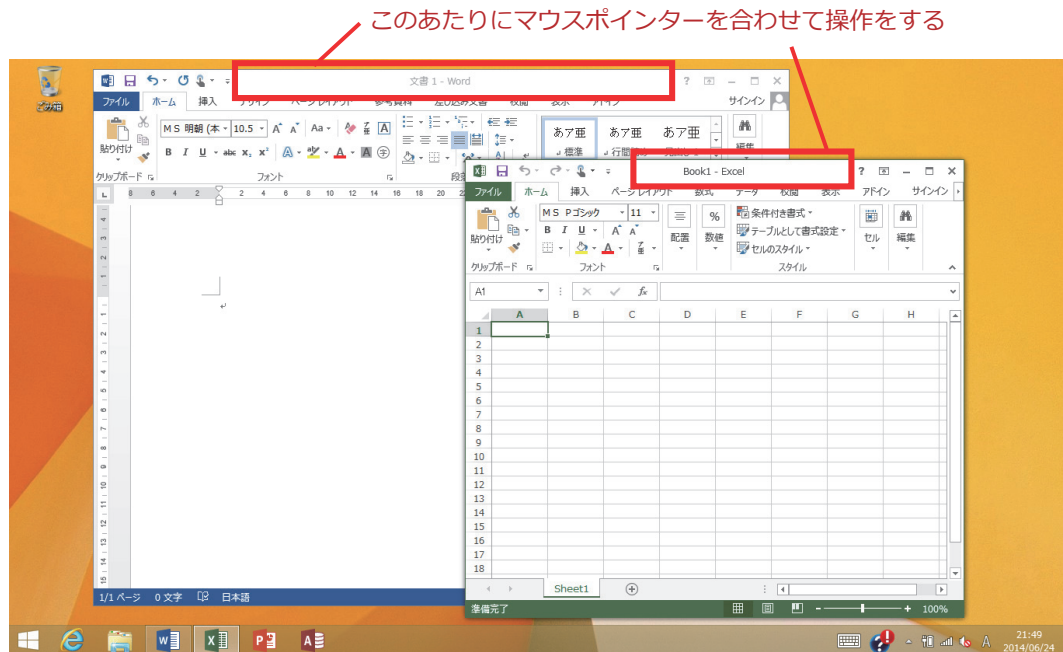
スタート画面で Word のタイルをクリックすると、右側に Word の画面が表示されます



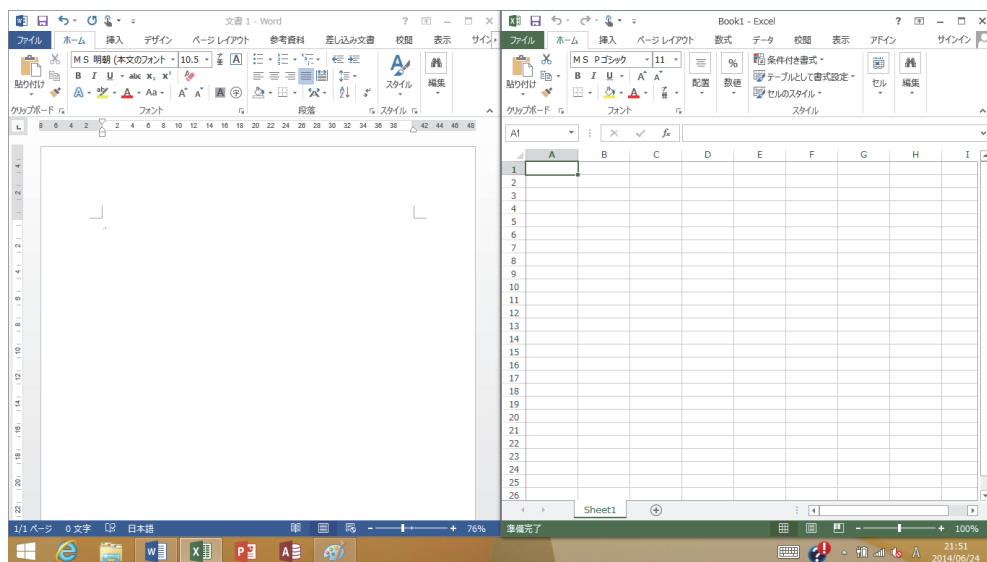
中央のバーをドラッグすると分割比率を変更できます

バーを右端/左端に移動させることで、それぞれ全画面表示に戻ります

デスクトップアプリは、デスクトップ画面の中で整列表示することができます。この場合は、デスクトップアプリの「タイトルバー」をドラッグして、画面の上・右・左にスナップします。画面の上端にスナップするとデスクトップ画面内で最大化され、右端や左端にスナップすると、スナップした方向の半分の画面に表示されます。



左右に分割され
見比べた作業が
しやすくなります

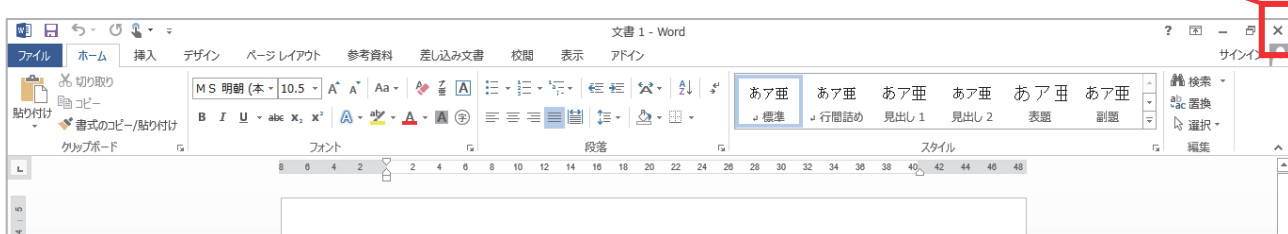


▶ アプリを終了する

アプリを終了する場合には、画面分割で使った「タイトルバー」の右端にある「×」ボタンを押します。ストアアプリもデスクトップアプリも基本的に同じ操作です。この他にも、「タスクバーのアイコンを右クリックする」「アプリで規定されている終了操作をする（「ファイルを閉じる」のメニューを選択する）」などの方法があります。



ストアアプリ、デスクトップアプリともタイトルバー右端の「×」ボタンをクリック



それぞれのボタンの機能

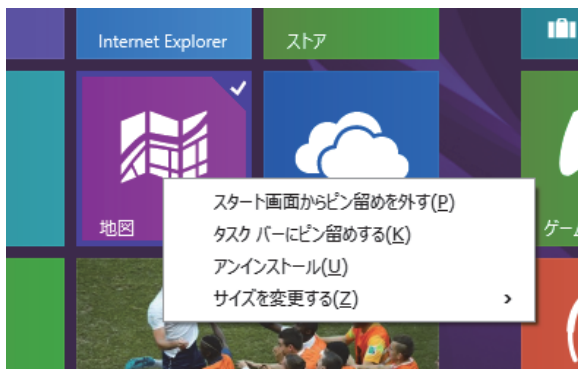
タイトルバーの右端には「×」以外のボタンも表示されています。それぞれのボタンの意味は以下の通りです。



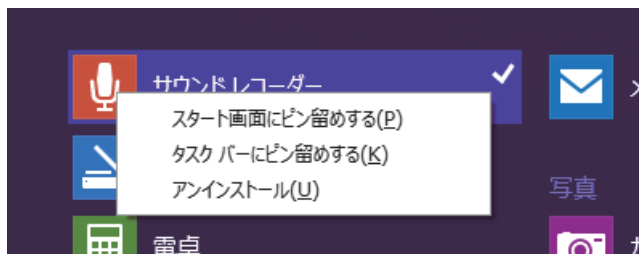
▶ 使いやすい画面に設定する①ピン留め

よく使うにもかかわらずタイルやタスクバーに表示されていないアプリは、スタート画面やタスクバーに登録する（ピン留めする）と、いちいち「すべてのアプリ」の画面にいかなくてよいので、便利です。ピン留め操作は、ピン留めしたいアプリを選択して右クリックすると表示されるメニューから実行します。

タイルを右クリック



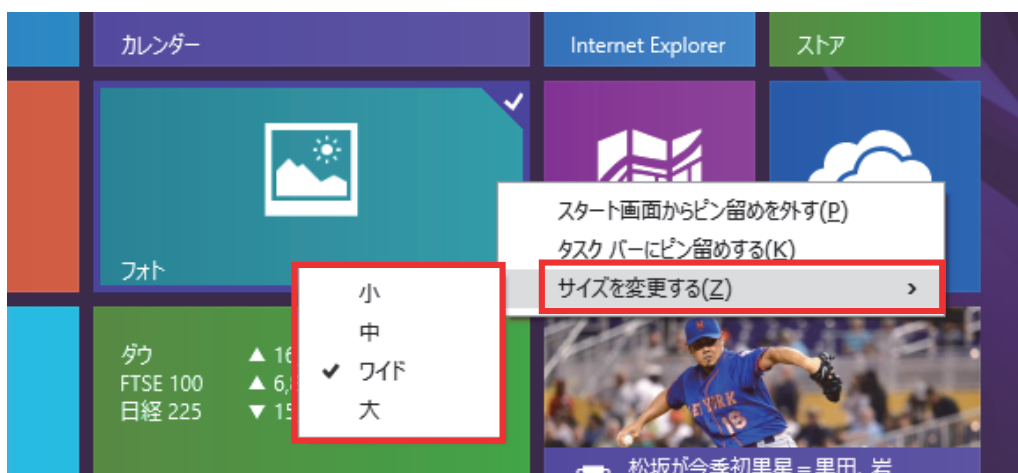
「すべてのアプリ」の画面からピン留め



逆に、あまり使わないにもかかわらずタイルやタスクバーに表示されている場合は、ピン留めを外すことで非表示にすることができ、スッキリした画面にできます。ピン留めを外しても、そのアプリはパソコンの中に残っているので、使う場合には「すべてのアプリ」の画面から起動することができます。

▶ 使いやすい画面に設定する②タイルの編集

同じように、タイルの大きさや位置を変更することができます。大きさを変える場合には、サイズ変更したいタイルを選択して右クリックし、表示されるメニューから「サイズを変更する」を選び、希望のサイズを指定します。位置の移動は、タイルをドラッグすることで可能です。

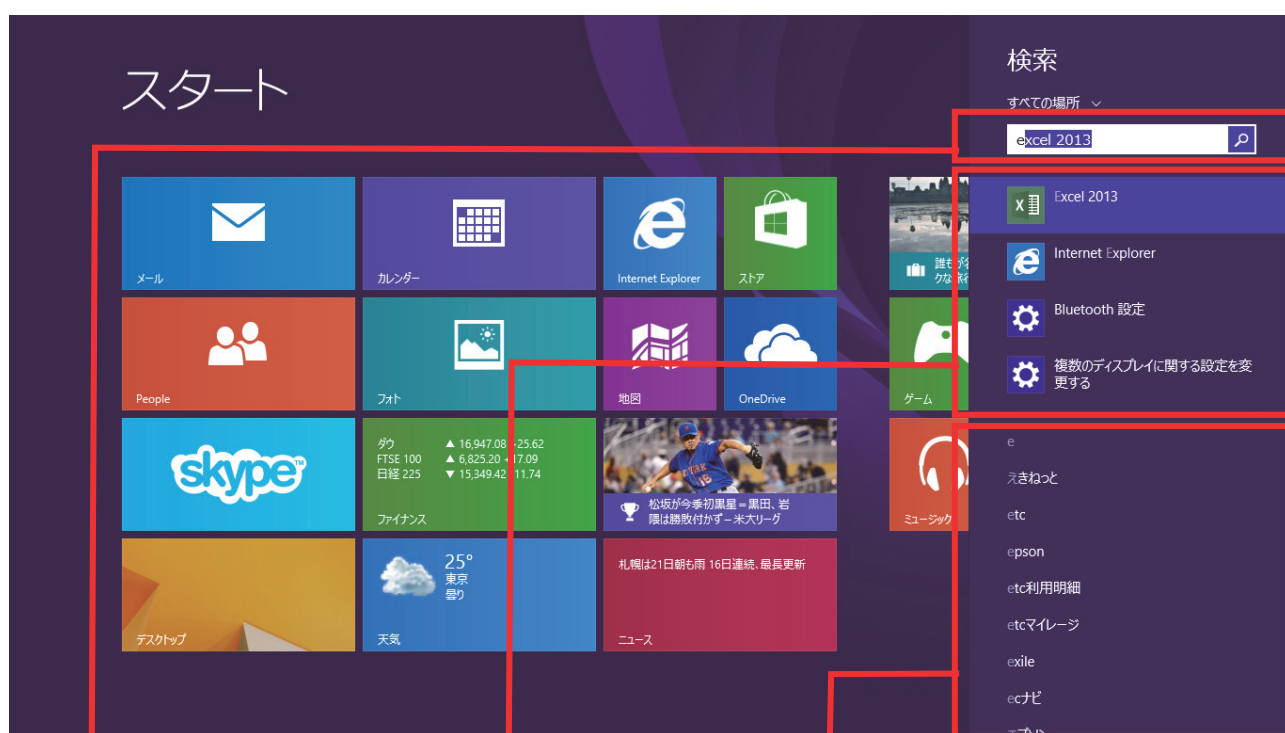


▶ アプリやドキュメントを検索する

スタート画面右上の虫眼鏡のアイコンをクリックすると、そのパソコンで使えるアプリや、保存されているデータを検索することができます。パソコンがインターネットとつながっていると、インターネットの検索結果も表示されます。



例えば「e」と入力すると、関連するアプリやデータ、インターネットの検索結果が表示されます



検索情報の入力エリア

そのパソコン内のアプリやデータの検索結果

インターネットの検索結果

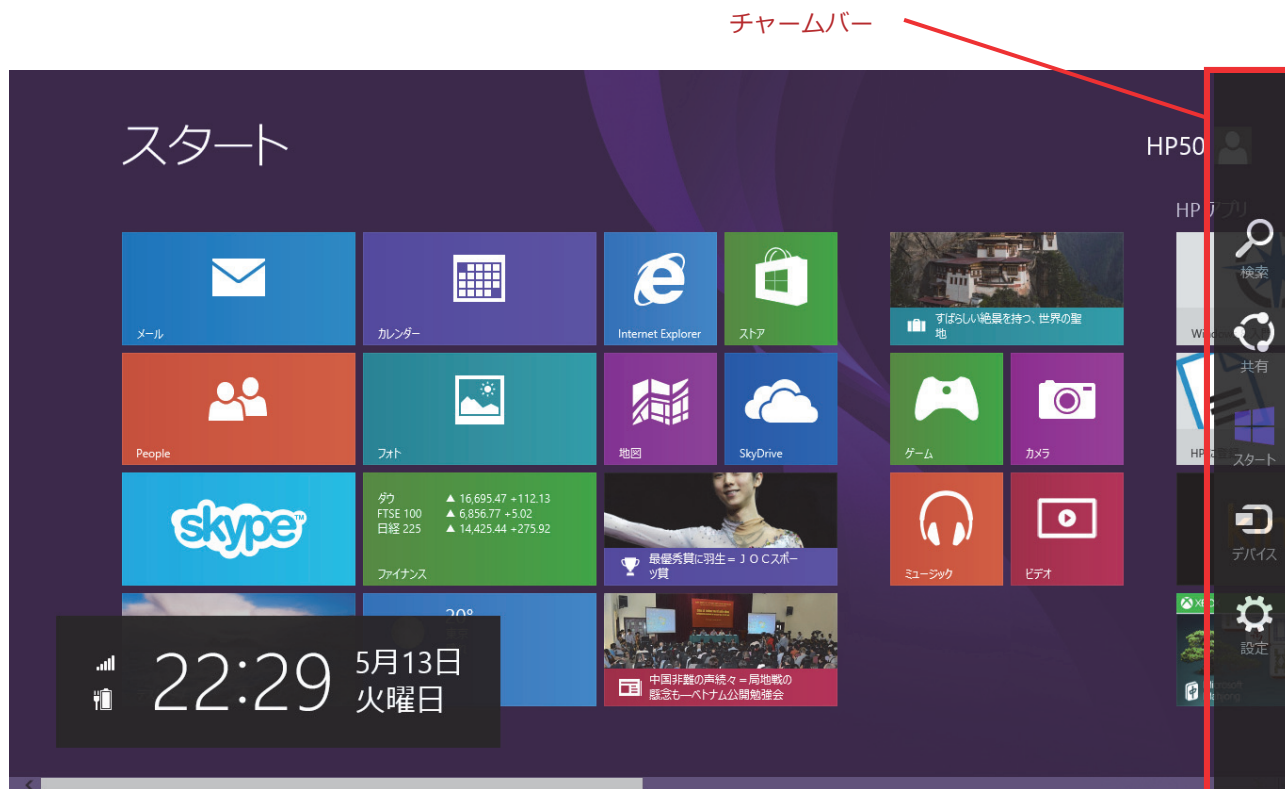


ダイレクト検索

スタート画面で何も選択していない状態でキーボード入力をするだけでも同じ結果を得ることができ、これをダイレクト検索といいます。虫眼鏡のアイコンを押さなくて良い分、素早い操作が可能になります。

▶ チャームを使いこなす

スタート画面から検索をするとき画面右側に表示されたバーを「チャームバー」といいます。チャームバーを表示すると、「検索」のほかに、「共有」「スタート」「デバイス」「設定」のアイコンが並んでいます。それぞれ、「共有チャーム」「設定チャーム」のように呼ぶことがあり、チャームを使いこなすことで、先ほどの「検索チャーム」のように、効率的な操作ができるようになります。



①チャームバーを表示させる

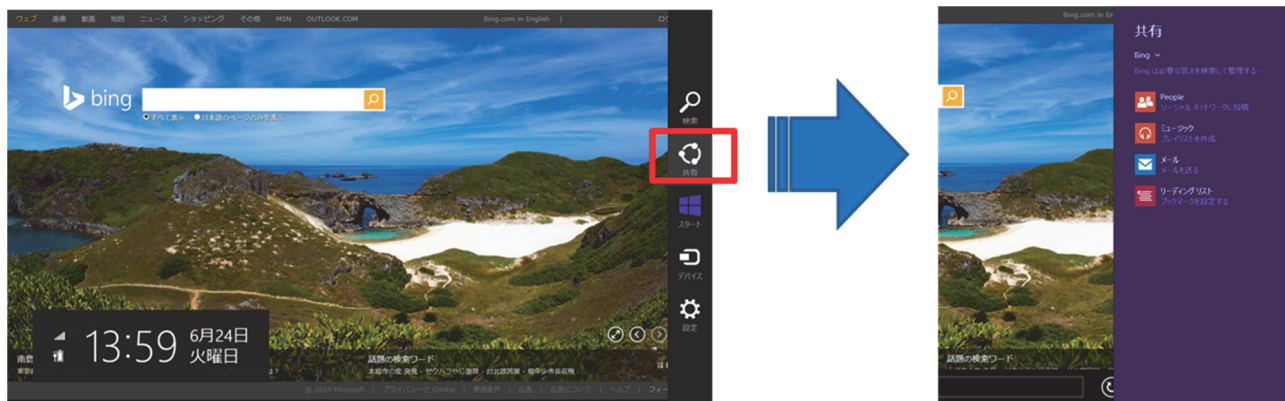
チャームバーを表示させるには、画面の右上にマウスポインターを移動させ、そのまま下に移動します。



※検索チャームについては前項で紹介しているので、以下は他のチャームについて説明します

②共有チャーム

共有チャームを使うことで、閲覧しているインターネットページや、作成した文書などのドキュメントを誰かと共有する操作を簡単にすることができます。



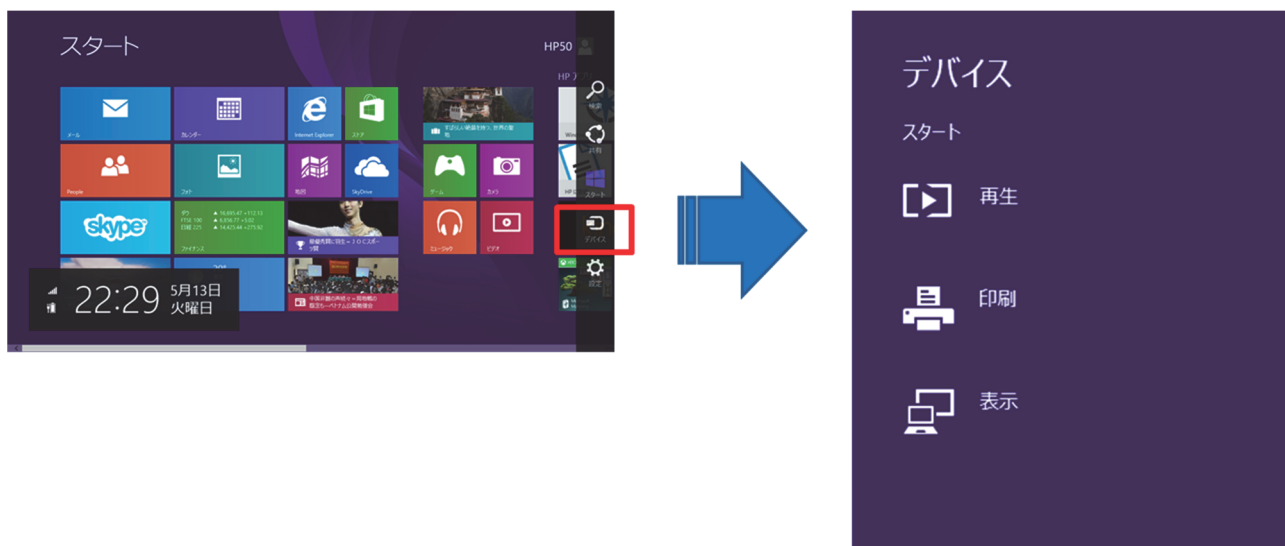
②スタートチャーム

スタートチャームを使うことで、どの画面からでもスタート画面に戻ることができます。既にスタート画面を表示している場合には、直前に使った、起動しているアプリ画面に戻ることができます。



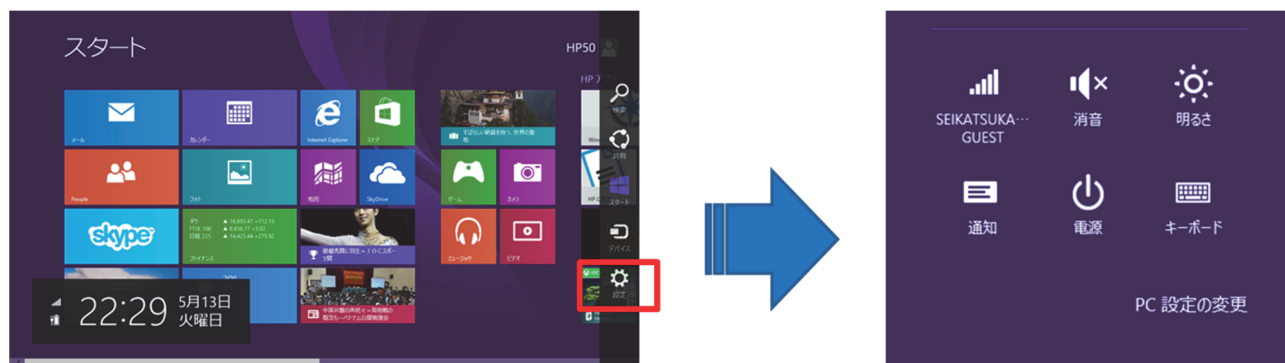
④デバイスチャーム

デバイスチャームを使うと、ファイルや情報を、プリンター、プロジェクターなどの機器（デバイス）に送ることができます。



⑤ 設定チャーム

設定チャームを使うと、画面の明るさや音量の調整、接続する Wi-Fi（インターネットに接続するための無線 LAN の電波）の選択、パソコンの設定の確認や変更をすることができます。



設定チャームのメニューにある「PC 設定の変更」からは、より細かな設定をすることができます。



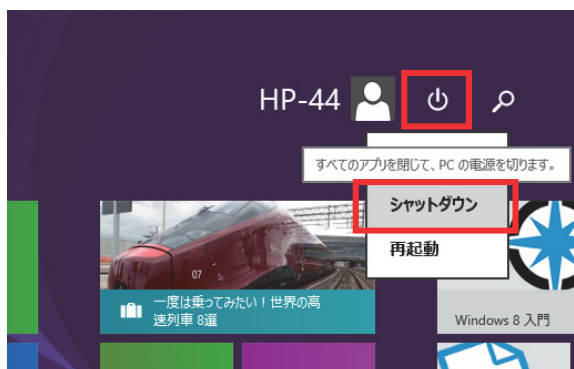
アプリ画面でチャームを使う

チャームはスタート画面やデスクトップ画面だけで使うわけではなく、共有チャームのように、アプリ画面で使うことで、アプリに合わせた動作をします。例えば「ストア」アプリを開いている状態で検索チャームを使うと、ストア内を検索することができます。チャームの動作はアプリによって異なり、うまく使いこなせるようになると、効率よく操作をすることができます。

▶ パソコンの電源を切る

パソコンは、テレビなどのように、電源ボタンを押してスイッチを切ってはいけません。以下の手順のいずれかで電源を切りましょう。なお、パソコンの電源を切ることを「シャットダウン」といい、電源が入った状態で省電力モードになることを「スリープ」といいます。スリープ状態にしたパソコンは、電源を切った状態からよりも早く復帰するので、一時的にパソコンの前から離れる場合などに有効です。

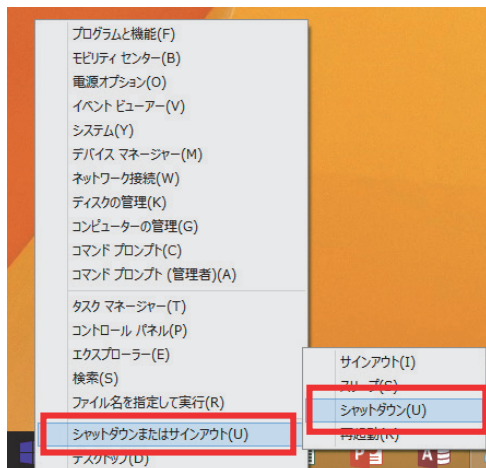
① スタート画面右上の電源ボタンからシャットダウンする



② 設定チャームの「電源」メニューからシャットダウンする



③ デスクトップ画面左下のスタートボタンを右クリックしてシャットダウンする



以下の操作を自分でやってみましょう。

- ①パソコンの電源を入れ、デスクトップ画面を表示させる
- ②デスクトップ画面からスタート画面に切り替える
- ③「ストア」アプリをタイルから起動する
- ④検索チャームで「w」と入力して「Word」を起動する
- ⑤「ストア」アプリの画面をモニター左半分に、「Word」の画面を右半分に分割表示させる
- ⑥分割表示を解除し、「Word」だけの画面にする
- ⑦「Excel」を起動する
- ⑧スナップ機能を使い、デスクトップ画面で、「Word」を左半分に、「Excel」を右半分に表示させる
- ⑨「ストア」「Word」「Excel」を終了させる（デスクトップ画面は起動したままで良い）
- ⑩スタート画面に任意のアプリをピン留めし、ピン留めできたことを確認できたら、ピン留めを外す
- ⑪タスクバーに任意のアプリをピン留めし、ピン留めできたことを確認できたら、ピン留めを外す
- ⑫任意のタイルのサイズを変更し、変更を確認できたら元のサイズに戻す
- ⑬任意のタイルを移動し、移動できることが確認できたら元の位置に戻す
- ⑭パソコンをシャットダウンする

TIPS（使い方ガイド）のサイトを活用する

Windows 8.1 Update には、ここまで学んだ以外にも様々な機能があります。マイクロソフト公式サイトでは、さまざまな活用方法が紹介されているので、必要に応じて自分で調べて解決できるようになりましょう。

●参考：Microsoft at Life (<http://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/tips/>)



Microsoft atLife

Microsoft atLife とは? サイトマップ

TOPICS TIPS テンプレート 製品サイト SNS リンク集 サポート ダウンロード キャンペーン PC 情報 購入情報 Club Microsoft

TIPS（使い方ガイド）

Microsoft の各製品をどのように使えばいいのか、具体的な機能や便利な使い方をご紹介します。

Home > TIPS (使い方ガイド)

TIPS (使い方ガイド) 一覧

製品で絞り込む

Windows Office その他

絞り込みを解除するには、選択した製品を再度クリックしてください。

気になる製品がある方は
ご購入情報

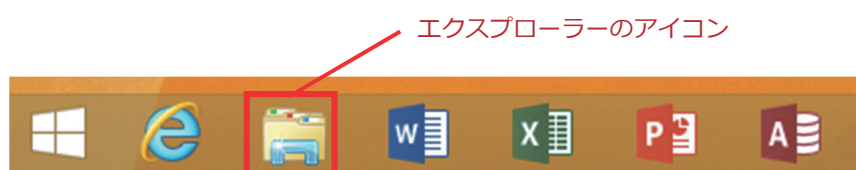
関連テンプレート

3. フォルダーとファイル

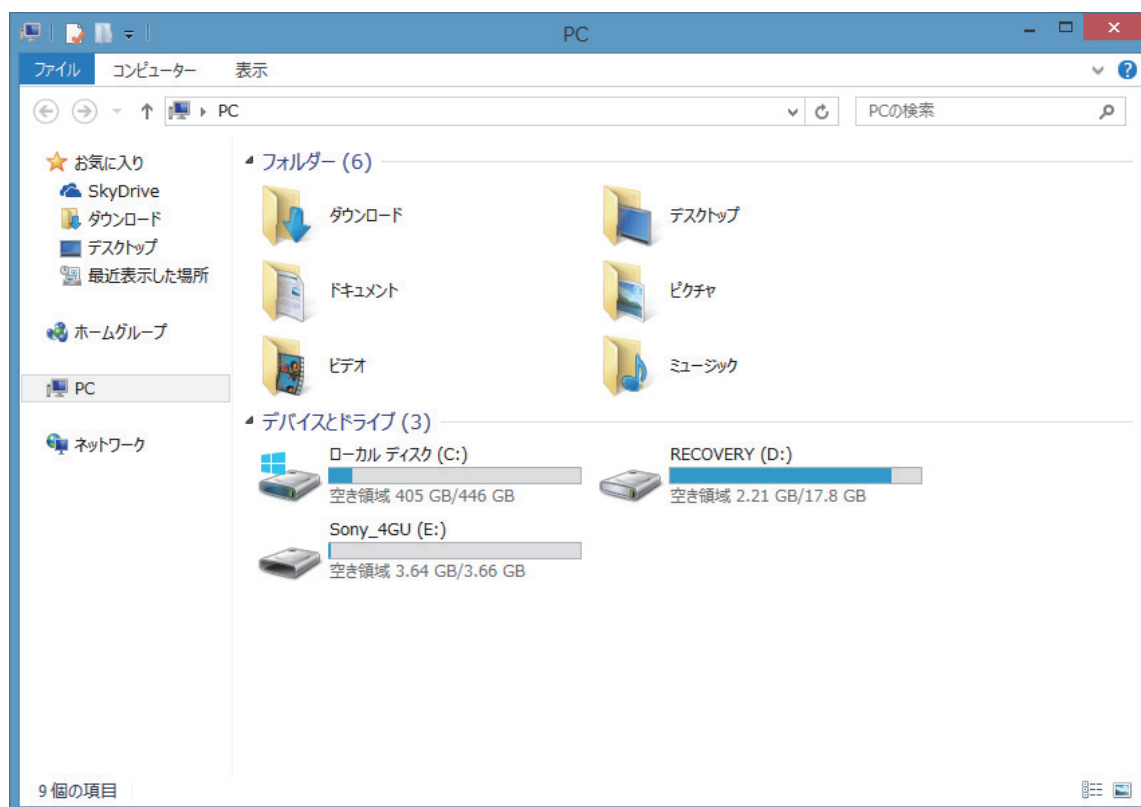
パソコンを使っていくと、文書、写真、音楽などのデータが保存されていきます。保存先は、パソコン本体の中にあるハードディスク、USB メモリ、クラウドなどがあります。ここからは、使っているパソコンに保存されているデータがどこにあるか、どう見分けて探すかについて学びます。

▶ エクスプローラー

ほとんどの場合、使っているパソコンに保存されているデータは「エクスプローラー」から確認することができます。エクスプローラーはタスクバーにある、書類をまとめるフォルダーの絵をしたアイコンから起動できます。



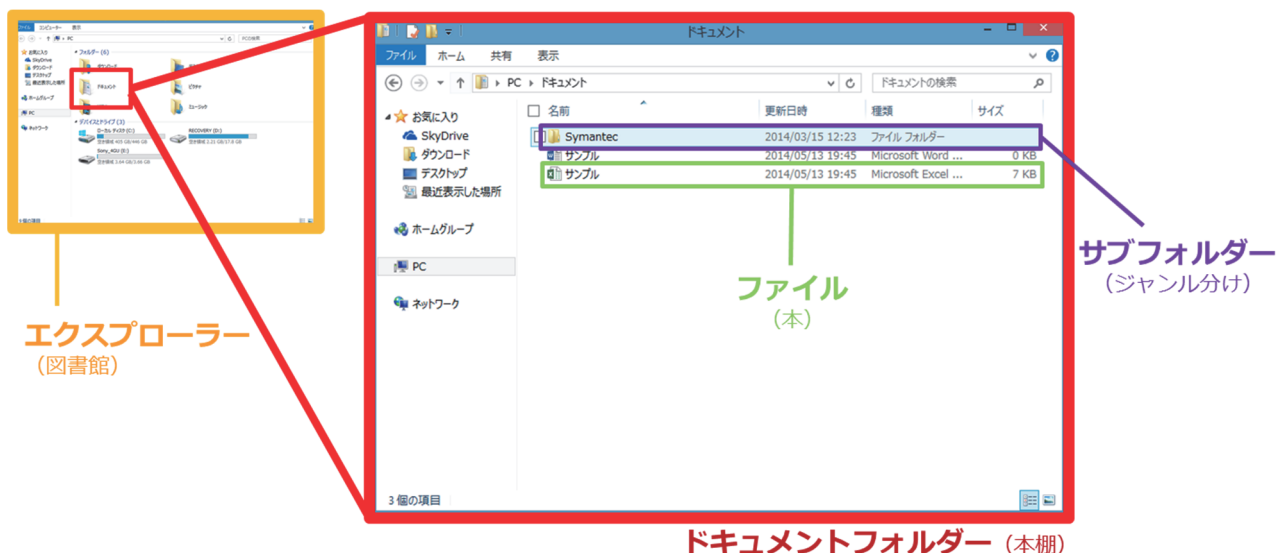
エクスプローラーのアイコンをクリックすると下図のようなウィンドウが開きます。



▶ フォルダーとファイルとは

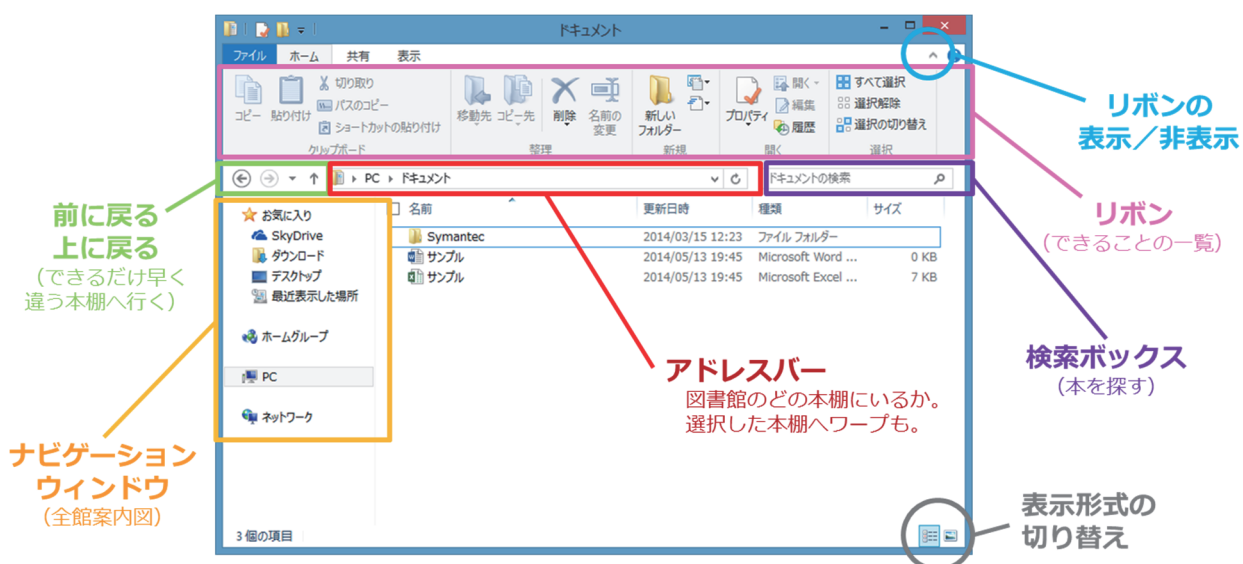
例えば、「エクスプローラー」を図書館、「フォルダー」は本棚、「ファイル」は本だとイメージすることができます。

図書館（エクスプローラー）には取り扱っているテーマによって本棚（フォルダー）があり、その本棚の中で、さらにジャンルわけされた仕切り（サブフォルダー）があり、そこに本（ファイル）があります。パソコンの「フォルダー」も「ファイル」も自分でつくることができるので、図書館のように分かりやすくデータを整理しましょう。



▶ フォルダーの見方

フォルダーの見方を知っておくと、すばやく必要な情報を取り出すことができます。



▶ ファイルの見方

ファイルは下図のようにアイコン表示されていて、どのアプリで使えるデータかが一目で分かるようになっています。細かな表示の状態はパソコンの「表示形式」によって異なりますが、基本的なことを理解しておくことで、必要なデータが探しやすくなります。



これは、それぞれのファイルにどのアプリケーションで開くデータかを見分ける「拡張子」（荷物につけるタグのようなもの）が設定されていて、Windows が、その拡張子と関連づいたアプリケーションであることを判断して表示しているおかげです。

例えば上図のフォルダ・ファイルはすべて「サンプル」という名称ですがアイコンが違います。これは、それぞれに、「サンプル.****」（「.****」部分はそれぞれのアプリごとに異なる）と、拡張子が設定されているためです。

● 代表的な拡張子

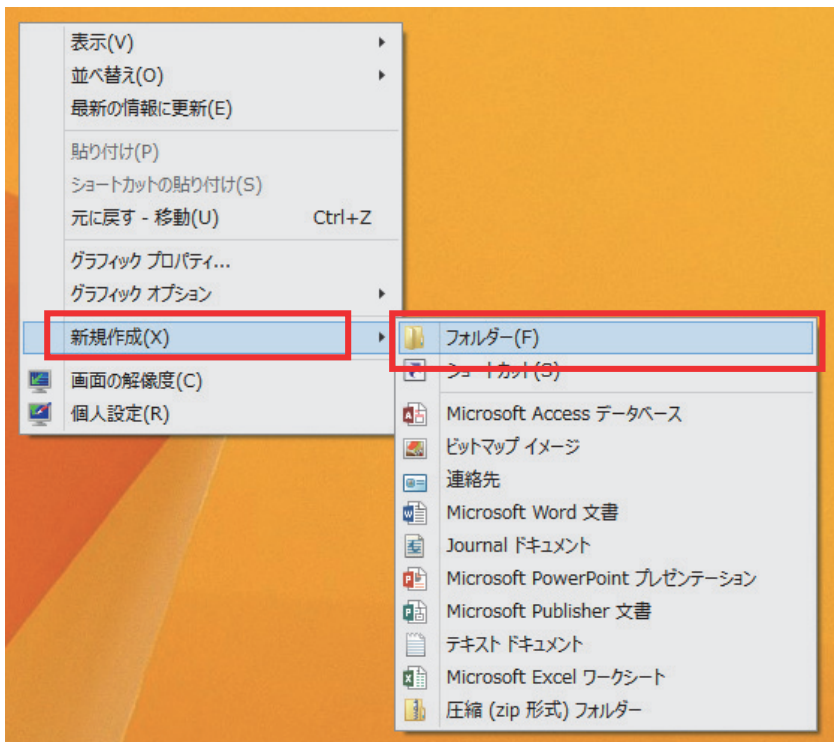
アイコン	アプリ/データ種類	拡張子
 Word2013	Word（2007 バージョン以降）	.docx
 Excel2013	Excel（2007 バージョン以降）	.xlsx
 PowerPoint2013	PowerPoint（2007 バージョン以降）	.pptx
 Access2013	ACCESS（2007 バージョン以降）	.accdb
 PDF	PDF	.pdf
 HTML	HTML（インターネットの HP など） ※ Internet Explorer と関連づけられている場合	.html

▶ フォルダの作成、ファイルの移動・削除

フォルダ・ファイルは各アプリの「ファイル保存」のメニューからできますが、ここではエクスプローラーを使った「フォルダの作成」と「ファイルの移動」「ファイルの削除」について学びます。

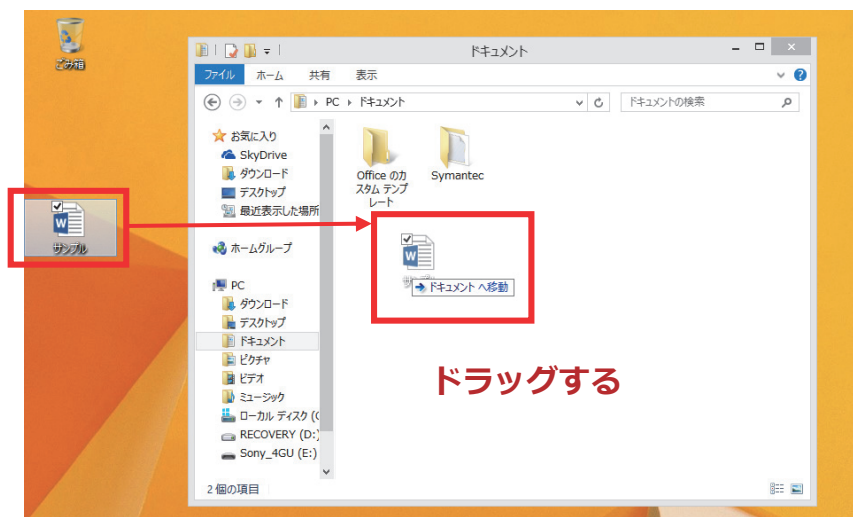
① フォルダの作成（例：デスクトップ画面にフォルダを作成する）

- ・デスクトップ画面の何も無いところで右クリックをする
- ・表示されるメニューから、「新規作成」「フォルダ」と選択する



② ファイルの移動（デスクトップにあるファイルを「ドキュメント」フォルダに移動させる）

- ・移動先となるフォルダを開く
- ・移動させるファイルを、移動先のフォルダにドラッグする



③ファイルの削除（「ドキュメント」フォルダーにある「サンプル」ファイルを削除する）

- ・削除したいファイルが保存されているフォルダーを開く（この例では「ドキュメント」フォルダー）
- ・削除したファイルをクリックして選択し、Delete キーを押す

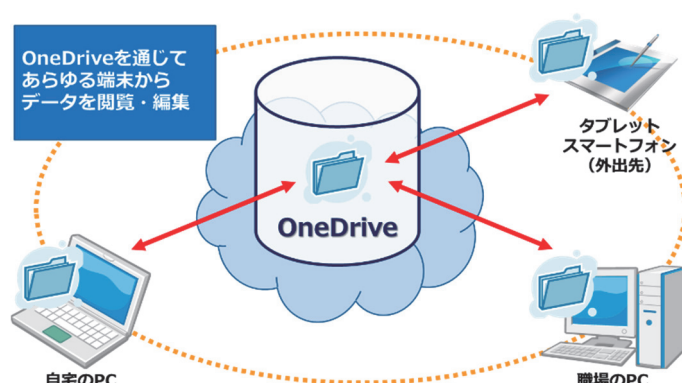


講師の口頭での指示を聞いて、指定されたファイルを開いてみましょう。



OneDrive を活用してデータをクラウドに保存し、活用する

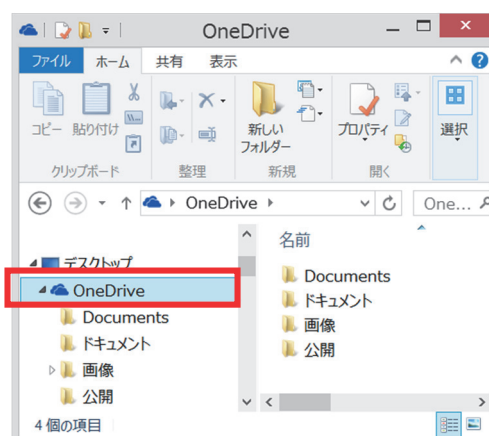
OneDrive はマイクロソフトが提供するオンラインストレージサービスです。オンラインストレージサービスとは、インターネットを通じてつながっているデータサーバー（データを保管する、サービス提供会社が管理しているパソコン）にデータ保存領域を提供するサービスのことで、インターネットにつながっていれば、自分のパソコンのハードディスクや USB メモリなどを使わずに、自宅のパソコン A からや、職場のパソコン B、スマートフォンなど、様々な端末でデータにアクセスすることができるようになります。



OneDrive は、Windows 8 から OS に標準で実装され、Microsoft アカウント（OneDrive など、マイクロソフトが提供する無料サービスを利用するためのアカウント）さえ持っていれば、あたかも自分のパソコンのフォルダーのようにデータを扱うことができます。

このようなサービスを「クラウド（cloud）」といい、データサーバーを空に浮かぶ雲のように見立てていることが由来とされています。

OneDrive は、エクスプローラーの「ナビゲーションウィンドウ」に、そのパソコンの設定されている一つのフォルダーのように表示されるほか、タブレットやスマートフォンでは、無料で提供されている専用アプリを使うことで、スムーズに接続し、文書等のドキュメントを閲覧・管理することができます。



4. タッチタイプ入門

▶ キーボードとタッチタイプについて

キーボードとは下図のようなもので、文字を入力する場合などに使用し、文字を入力することをタッチタイプといいます。パソコン初心者は、この「タッチタイプ」でつまずきやすいので、マウス操作と同じように、しばらくは繰り返しの練習で「慣れる」ことが必要です（自転車に乗れるようになるための練習と同じです）。

●基本的なキー配列。使うキーボードやメーカーによって配列が異なることがあります



ただし、日常的にパソコンを使う人でも、キーボードを完全に見ないで入力している人はそれほど多くありません。まずはゆっくりでも両手を使って入力できるようになりましょう。1 分間で平仮名 100 文字（漢字変換を含む場合は 1 分で 40 文字）程度の入力ができるようになると、Word・Excel・PowerPoint の講座にもついていけます。

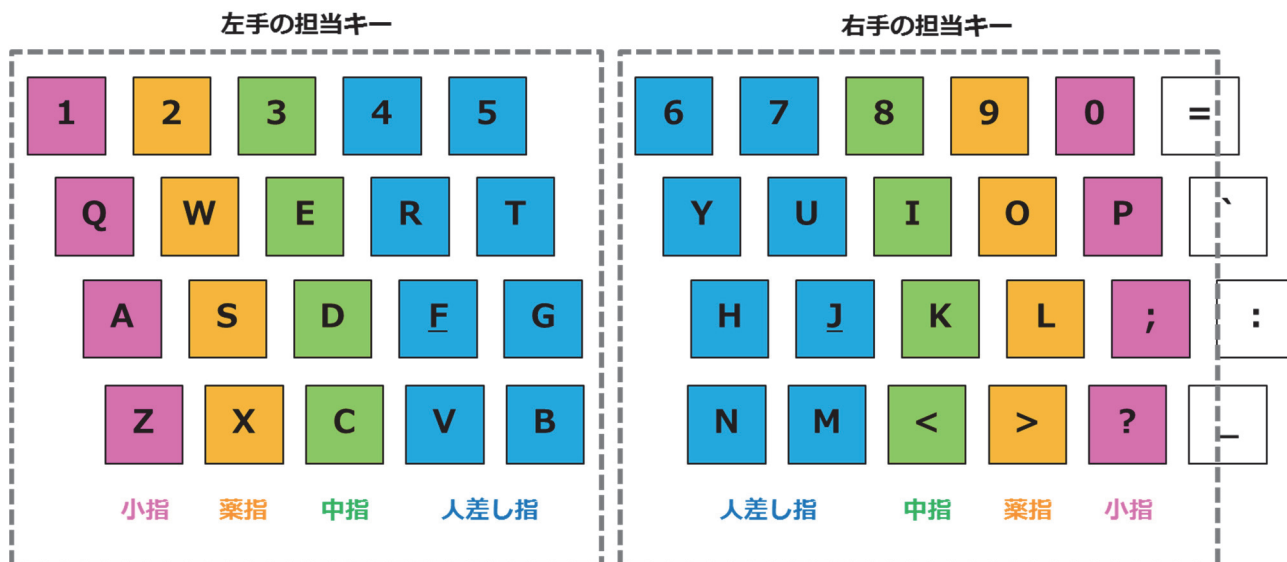
▶ ホームポジション

ホームポジションとは、キーボードに指を置く基本の位置（ポジション）です。入力を始めるときは、力まずに、ホームポジションに指を置きましょう。



▶ 指の役割分担

効率良く入力をするために、それぞれの指が担当する基本的な役割分担があります。慣れた人でもこの通りではないこともありますが、意識して練習するようにしましょう。

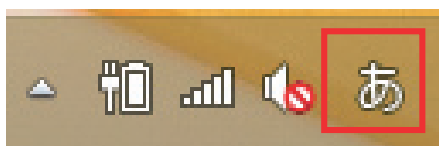


▶ 日本語入力モードのオン／オフ

パソコンには「日本語入力モード」のオンとオフがあり、オンになっていると日本語が入力できるようになり、オフになっていると英数字と記号しか入力できません。メールや文書を作成するときには日本語入力システムをオンにします。なお、アプリケーションによっては、起動したときに日本語入力システムが自動でオンになったりオフになったりしますが、何を入力するかによって、自分で切り替えられるようになっておきましょう。

① 日本語入力がオンの状態

日本語入力モードがオンになっているか（日本語の入力ができるか）どうかは、タスクトレイに「あ」と表示されているかどうかで確認することができます。以下のようになっていれば、日本語入力ができます。



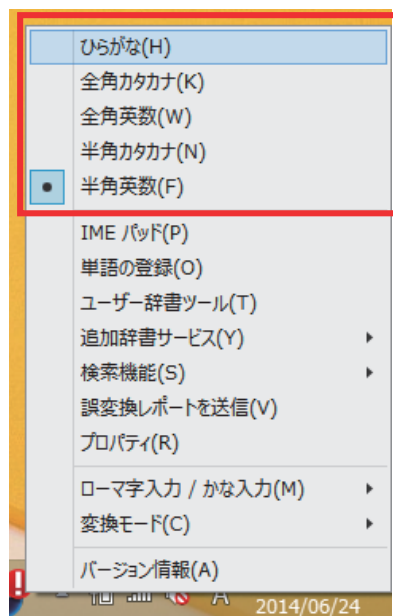
このように「あ」となっていれば日本語入力ができます

② 日本語入力がオフの状態

日本語入力モードがオフになっている場合は、「A」と表示されます。



③ 日本語入力のオン／オフの切り替え



日本語入力は、キーボード左上の全角／半角キーを押すか、タスクトレイの「あ」「A」の表示にマウスポインターを合わせて右クリックすると表示されるメニューから切り替えることができます。



アルファベットの大文字・小文字の切り替え

日本語入力モードをオフにしているとアルファベットでの入力になります。標準では、そのまま入力すると小文字が入力されますが、**Shift**キーを押しながら入力すると大文字になります。大文字だけを入力したい場合は、**Shift**キーを押しながら**CapsLock**キーを押すことで大文字入力ができるようになります（CapsLock オン状態）、この状態で**Shift**キーを押して入力すると、小文字が入力できるようになります。

▶ 「ローマ字入力」と「かな字入力」、入力の確定・改行

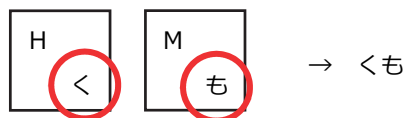
日本語入力には「ローマ字入力」と「かな字入力」の二つの方法があります。

このテキストでは、これ以降、ローマ字入力を前提にしています。

①ローマ字入力：キーボードに表示されている「アルファベット」をもとに、ローマ字つづりで入力します。



②かな字入力：キーボードに表示されている「ひらがな」が、そのまま入力されます



入力した文字を確定したい場合は【KUMO】と入力し、画面に【くも】と表示されたところで Enter キーを押します。
多くの場合、入力を確定したあと、もう一度 Enter キーを押すことで改行（カーソルが次の行に移動する）されます。



講師の指示に従って、Word で入力の練習をしてみましょう。スピードよりも正確さを大事にして下さい。

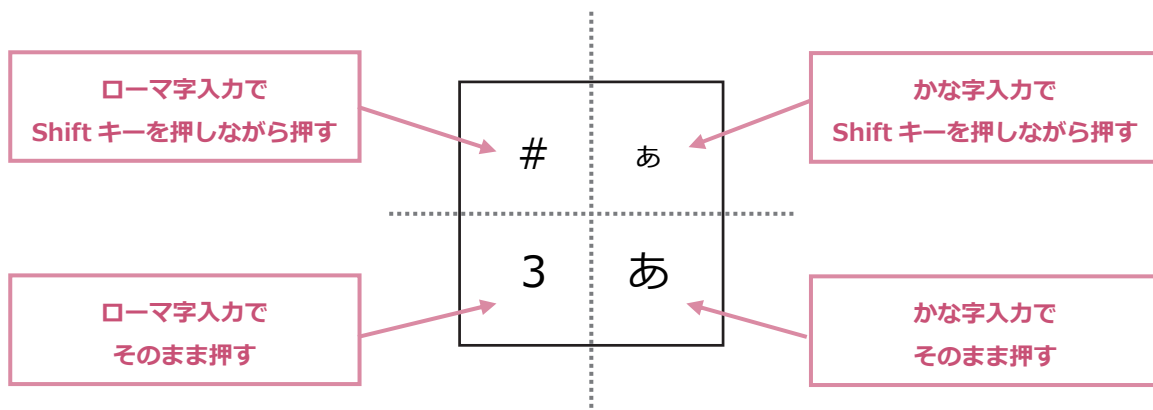
- ①日本語入力モードをオフにする
- ②ホームポジションに指を置く
- ③ホームポジションと指の役割分担を意識して【abcdefghijklmnopqrstuvwxyz】【ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ】 と入力する
- ④日本語入力モードをオンにする
- ⑤ホームポジションと指の役割分担を意識して【あいうえお】と入力し確定する。
- ⑥【あいうえお】の入力が確定したら改行し、改行した行に【かきくけこ】と入力し確定して改行する。
- ⑦以降【さしすせと】と入力して確定・改行し【たちつと】と入力して確定・改行し【ん】まで入力する。

▶ 【参考】ローマ字表

	A	I	U	E	O	A	I	U	E	O
A	あ	い	う	え	お					
	A	I	U	E	O					
K	か	き	く	け	こ	きゃ		きゅ		きょ
	KA	KI	KU	KE	KO	KYA		KYU		KYO
S	さ	し	す	せ	そ	しゃ		しゅ		しよ
	SA	SI (SHI)	SU	SE	SO	SYA (SHA)		SYU (SHU)		SYO (SHO)
T	た	ち	つ	て	と	ちゃ		ちゅ	ちえ	ちよ
	TA	TI (CHI)	TU (TSU)	TE	TO	TYA (CHA)		TYU (CHU)	TYE (CHE)	TYO (CHO)
N	な	に	ぬ	ね	の	にゃ		にゅ	にえ	にょ
	NA	NI	NU	NE	NO	NYA		NYU	NYE	NYO
H (F)	は	ひ	ふ	へ	ほ	ひゃ	ふい	ひゅ	ふえ	ひよ
	HA	HI	HU (FU)	HE	HO	HYA	FI	HYU	FE	HYO
M	ま	み	む	め	も	みゃ		みゅ		みよ
	MA	MI	MU	ME	MO	MYA		MYU		MYO
Y	や		ゆ		よ	ゃ		ゅ		ょ
	YA		YU		YO	LYA (XYA)		LYU (XYU)		LYO (XYO)
R	ら	り	る	れ	ろ	りゃ		りゅ		りよ
	RA	RI	RU	RE	RO	RYA		RYU		RYO
W	わ	うい		うえ	を					
	WA	WI		WO	WO					
N	ん									
	N (NN)									
G	が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぎゃ		ぎゅ		ぎょ
	GA	GI	GU	GE	GO	GYA		GYU		GYO
Z	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	じゃ		じゅ		じょ
	ZA	ZI (JI)	ZU	ZE	ZO	ZYA (JA)		ZYU (JU)		ZYO (JO)
D	だ	ぢ	づ	で	ど	ぢゃ		ぢゅ		ぢょ
	DA	DI	DU	DE	DO	DYA		DYU		DYO
B	ば	び	ぶ	べ	ぼ	びゃ		びゅ		びょ
	BA	BI	BU	BE	BO	BYA		BYU		BYO
P	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	ぴゃ		ぴゅ		ぴょ
	PA	PI	PU	PE	PO	PYA		PYU		PYO
V	うゝ あ	うゝ い	うゝ	うゝ え	うゝ お					
	VA	VI	VU	VE	VO					
他	あ	い	う	え	お	っ				
	LA (XA)	LI (XI)	LU (XU)	LE (XE)	LO (XO)	LTU (XTU) または次の音の最初の文字を重ねる：たっち→TATTI				

▶ 数字・記号を入力する

キーボードには最大で 4 つの文字・記号が書かれています。左半分がローマ字入力用、右半分がかな字入力用です。また、上半分は「Shift」キーを押しながら押すことで入力される記号などになっています。



先ほどの【あいうえお…ん】の次の行に、講師の指示で数字や記号を入力してみましょう。



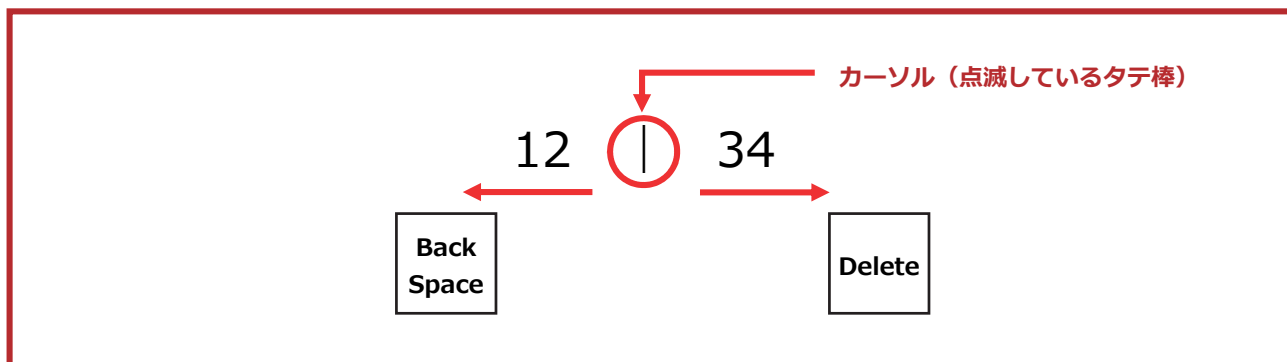
入力の例外

【 、 。 ・ 「 」 】はキーの右上に書かれていますが、ローマ字入力でも使用でき、さらに、Shift キーを押す必要がありません。

▶ 文字を削除する

間違えて入力した文字を削除する場合、`BackSpace` キーや `Delete` キーを使います。

`BackSpace` キーはカーソル位置の左側の文字を削除し、`Delete` キーはカーソル位置の右側の文字を削除します。



試しに、以下の通りにやってみましょう。

- ①【1234】と入力・確定し、カーソルを【2】と【3】の間に移動
- ②`BackSpace` キーを押して【2】が削除されることを確認
- ③そのまま `Delete` キーを押して【3】が削除されることを確認
- ④最終的に【14】だけが残っていれば操作完了



ここまでに入力した文字について、`BackSpace` キーと `Delete` キーを使って、任意で削除してみましょう。

▶ 平仮名を漢字に変換する

入力した平仮名は「変換」という操作をすることで漢字にすることができ、漢字かな交じり文になります。

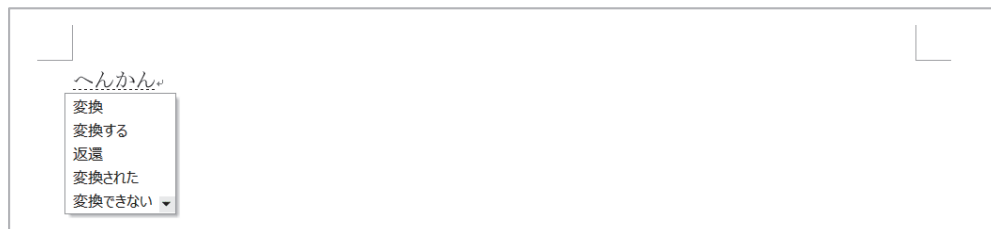
変換には **Space** キーを使い、変換結果が間違っていなければ **Enter** キーで確定します。

① 日本語入力モードがオンになっていることを確認する

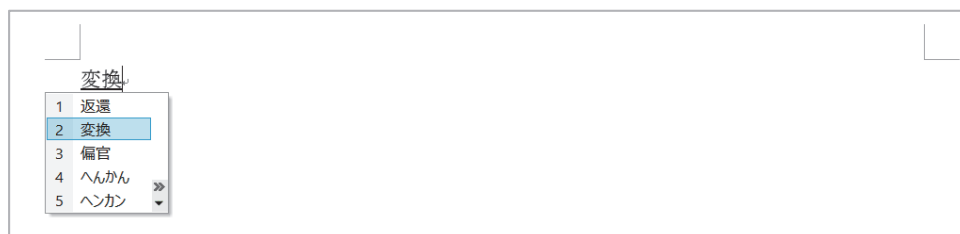


② 文字を入力（ここでは【へんかん】と入力）するが、まだ確定はしない

（予測変換候補が表示されるが、ここでは気にしないで③へ）



③ **Space** キーを押して漢字への変換を命令する



④ 【変換】 となったら Enter キーで確定する



歴史上の人物名や地名などについて漢字で入力してみましょう。

▶ ファンクションキーを利用した変換

キーボード上部にある「F1」「F2」のキーを「ファンクションキー」といいます。ファンクションキーを使って、効率よく変換することができます。なお、日本語変換ソフトによって変換のされ方が異なり、以下は Windows 標準の IME をもとにしています。

F6	平仮名	続けて押すと最初の文字から 1 字ずつカタカナに変換されます。 例) ばなな→バナナ→バナナ→ばなな
F7	全角カタカナ	全角カタカナに変換され、 続けて押すと後ろから 1 字ずつ平仮名に戻ります。 例) バナナ→バナナ→バナナ→バナナ
F8	半角ｶﾀｶﾅ	半角ｶﾀｶﾅに変換され、 続けて押すと後ろから 1 字ずつ平仮名に戻ります。 例) バ`ﾅﾅ→バ`ﾅﾅ→バ`ﾅﾅ→バ`ﾅ
F9	全角英数字 a b c d、1 2 3 4	全角英数に変換され、続けて押すと、全て小文字→すべて大文字→先頭だけ大文字の順で変換されます。 例) w i n d o w s → W I N D O W S → W i n d o w s → w i n d o w s
F10	半角英数字 abcd、1234	半角英数に変換され、続けて押すと、全て小文字→すべて大文字→先頭だけ大文字の順で変換されます。 例) windows → WINDOWS → Windows → windows



効率の良い変換を意識しながら、以下の例文をワードに入力してみましょう。

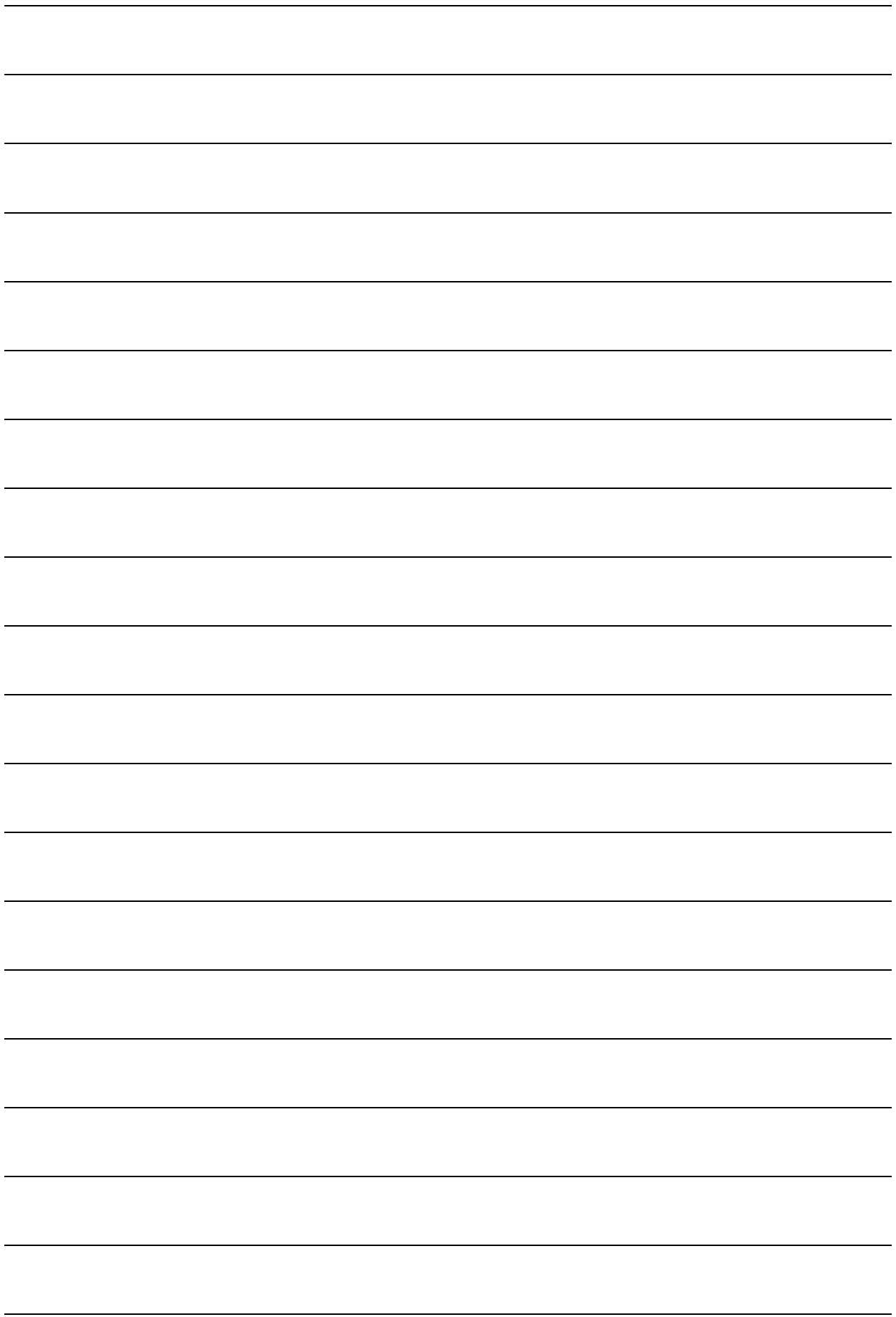
パソコン講座に参加して、基本操作を勉強しています。
最新版の Windows は触ったことがないのでドキドキします。
この講座が終わったら、Word の講座も受けてみたいです。

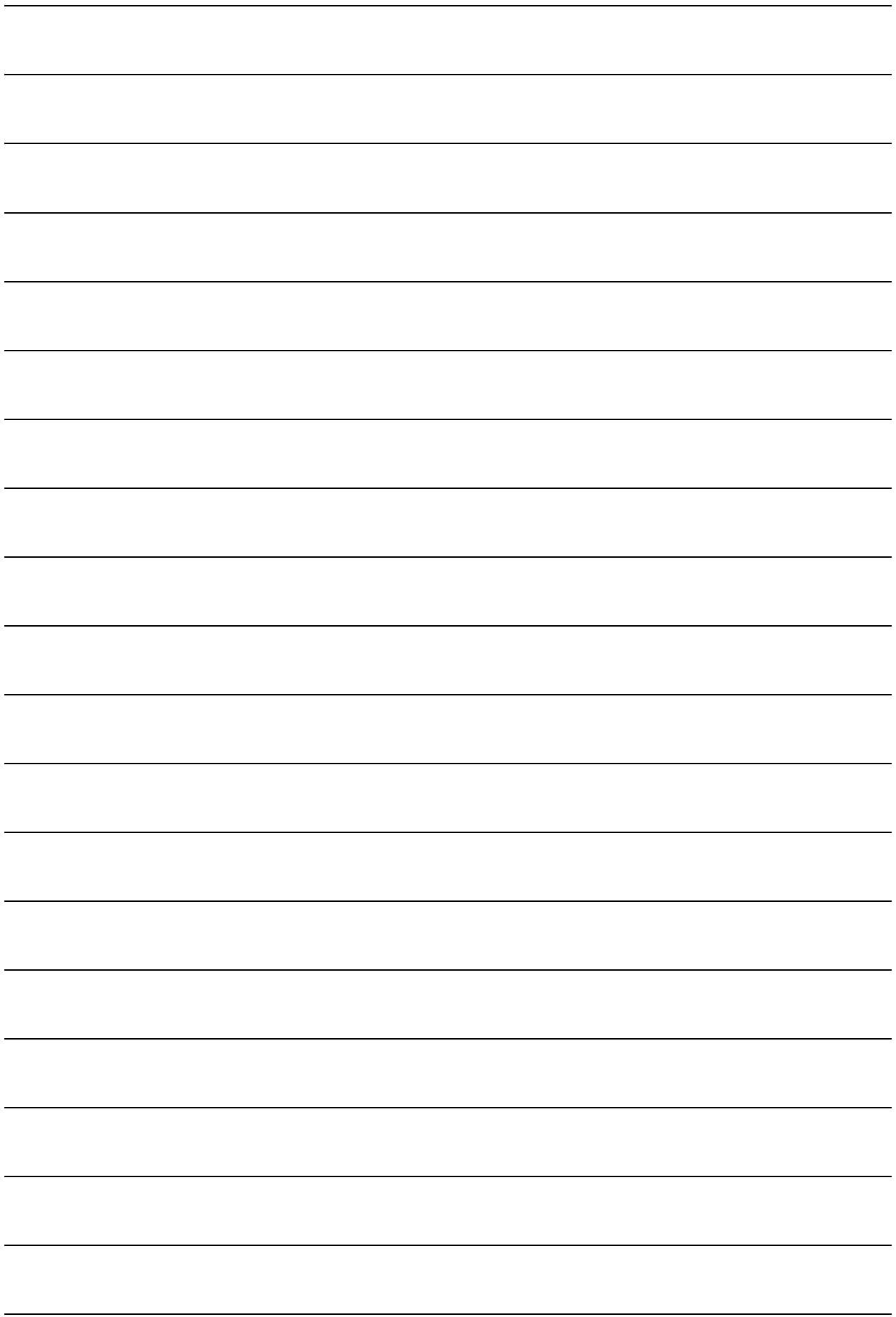


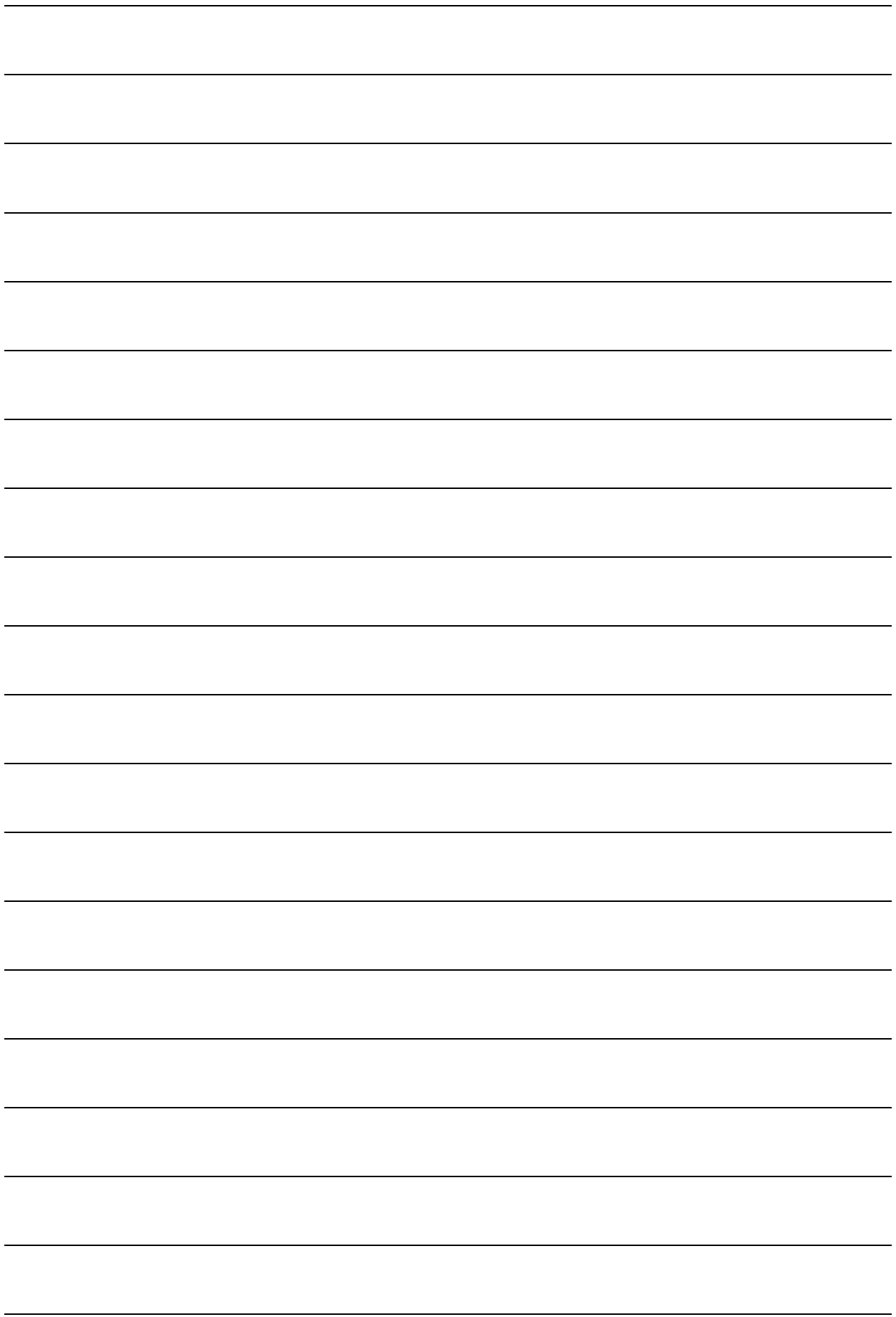
さまざまな記号の入力

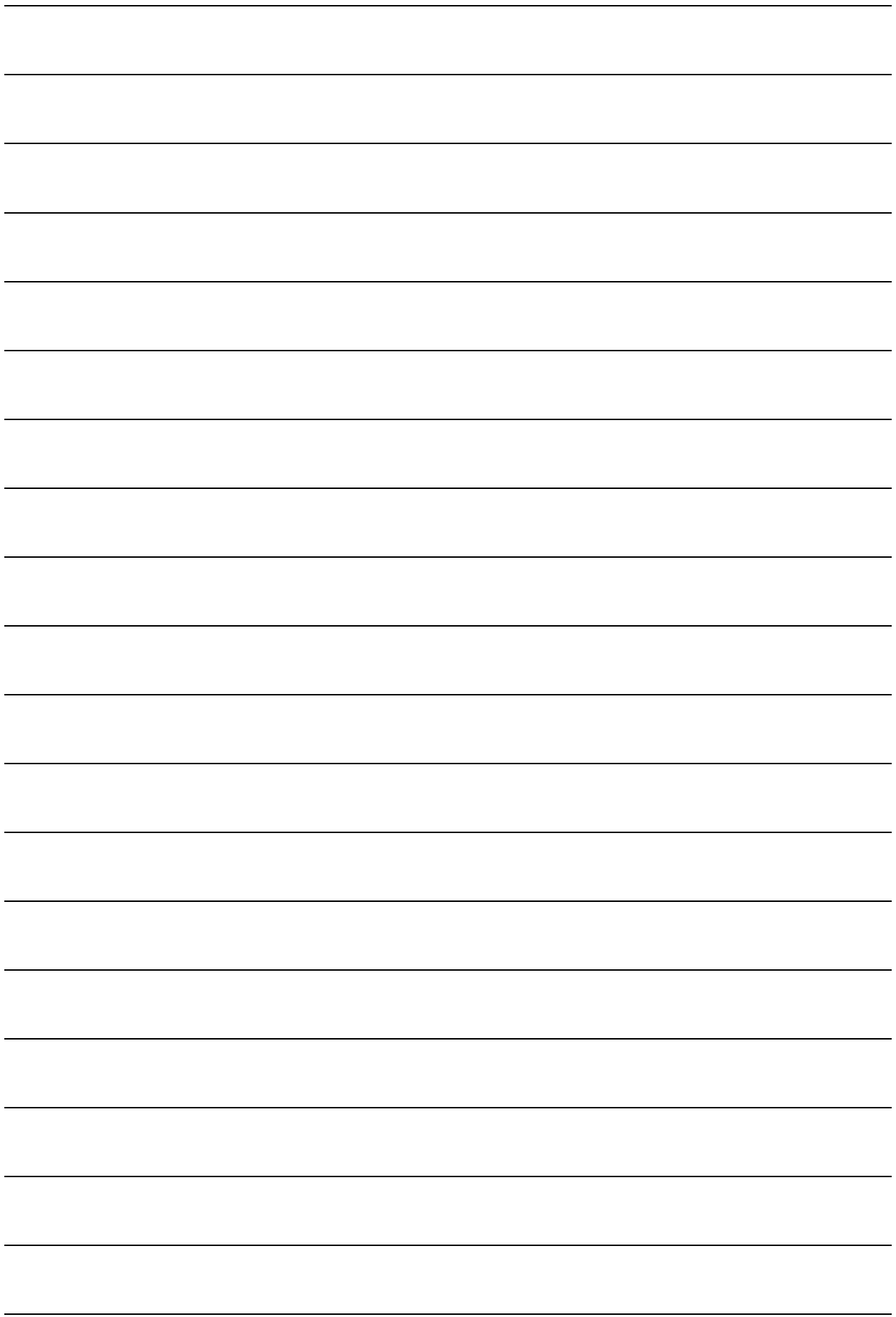
例えば 〒 のマークは、 ゆうびん と入力して変換することで表示されます。

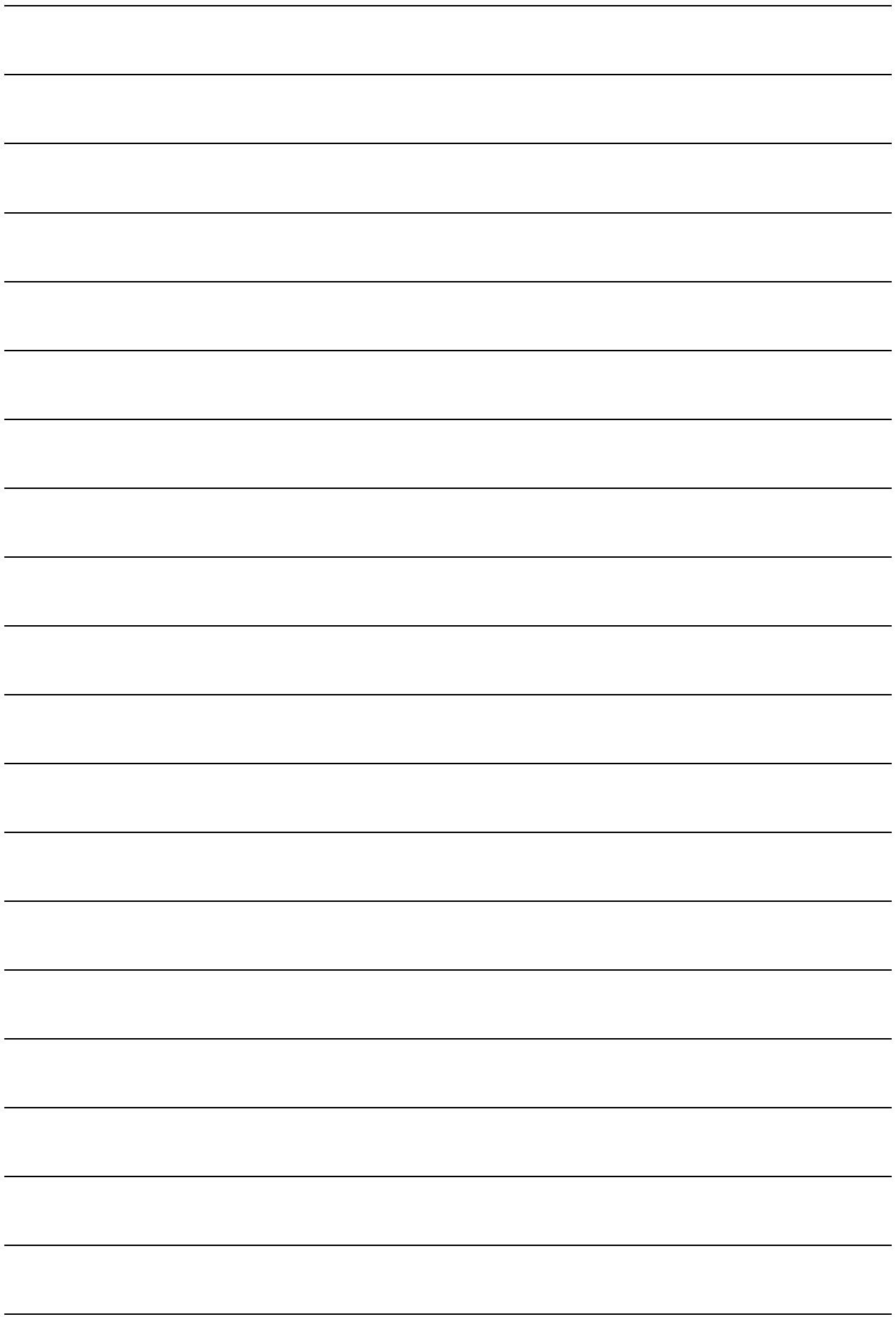
この他に ♪（おんぷ） ※（こめ） ☆（ほし） など、キーボードには表示されていない、さまざまな文字が変換で表示できます。いろいろと試してみましょう。

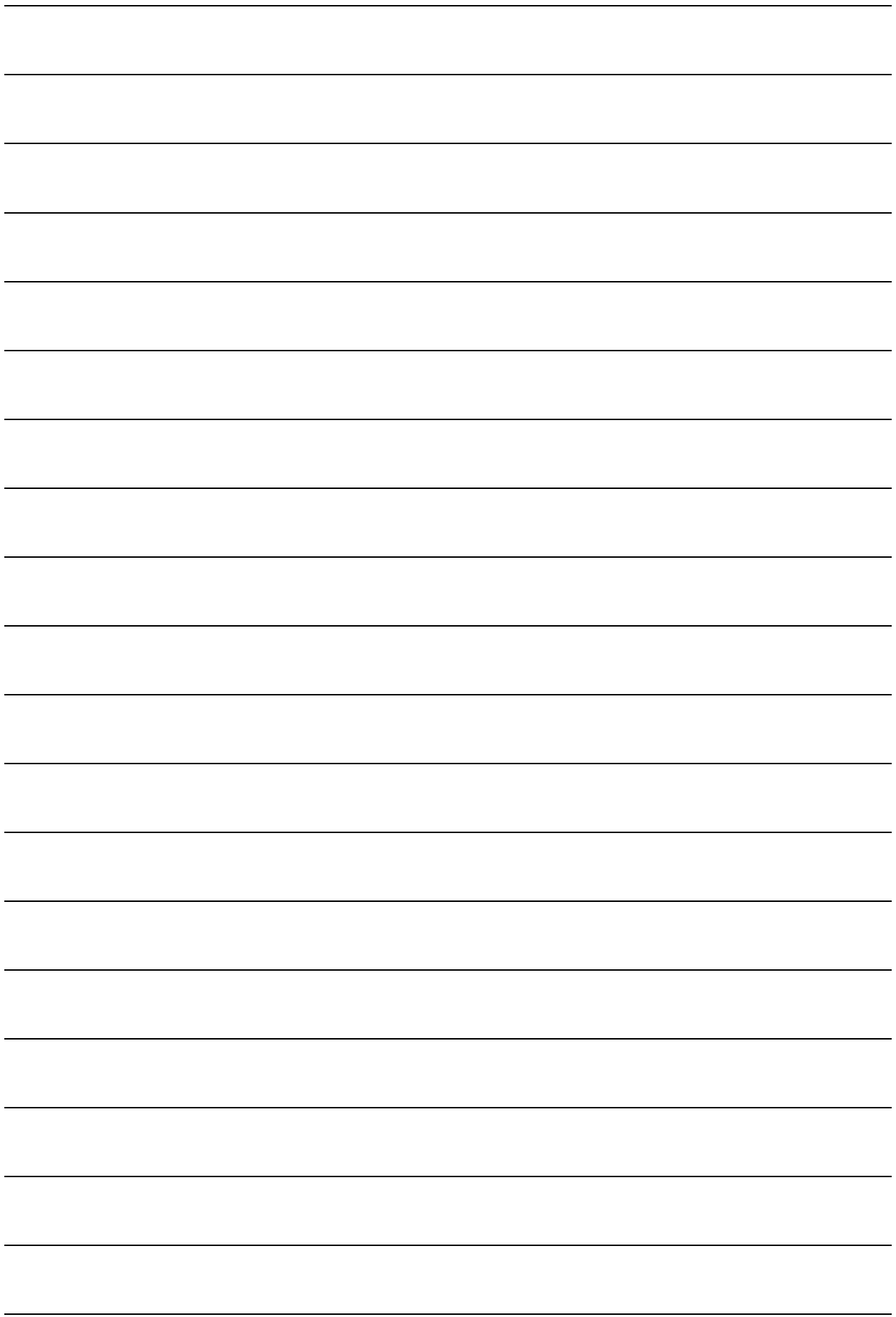












PC 入門

制作・著作：日本マイクロソフト株式会社
無断使用・複製・転載を禁止します

